

令和6年度 学力向上プログラム推進事業

「令和の日本型学校教育の具現化に向けた実証研究」推進校

令和6年度

研究のまとめ

かほく市立高松中学校

1 研究主題

自ら考え 豊かに表現する生徒の育成
～ 思考を深め、伝え合う力を高める授業づくりを通して ～

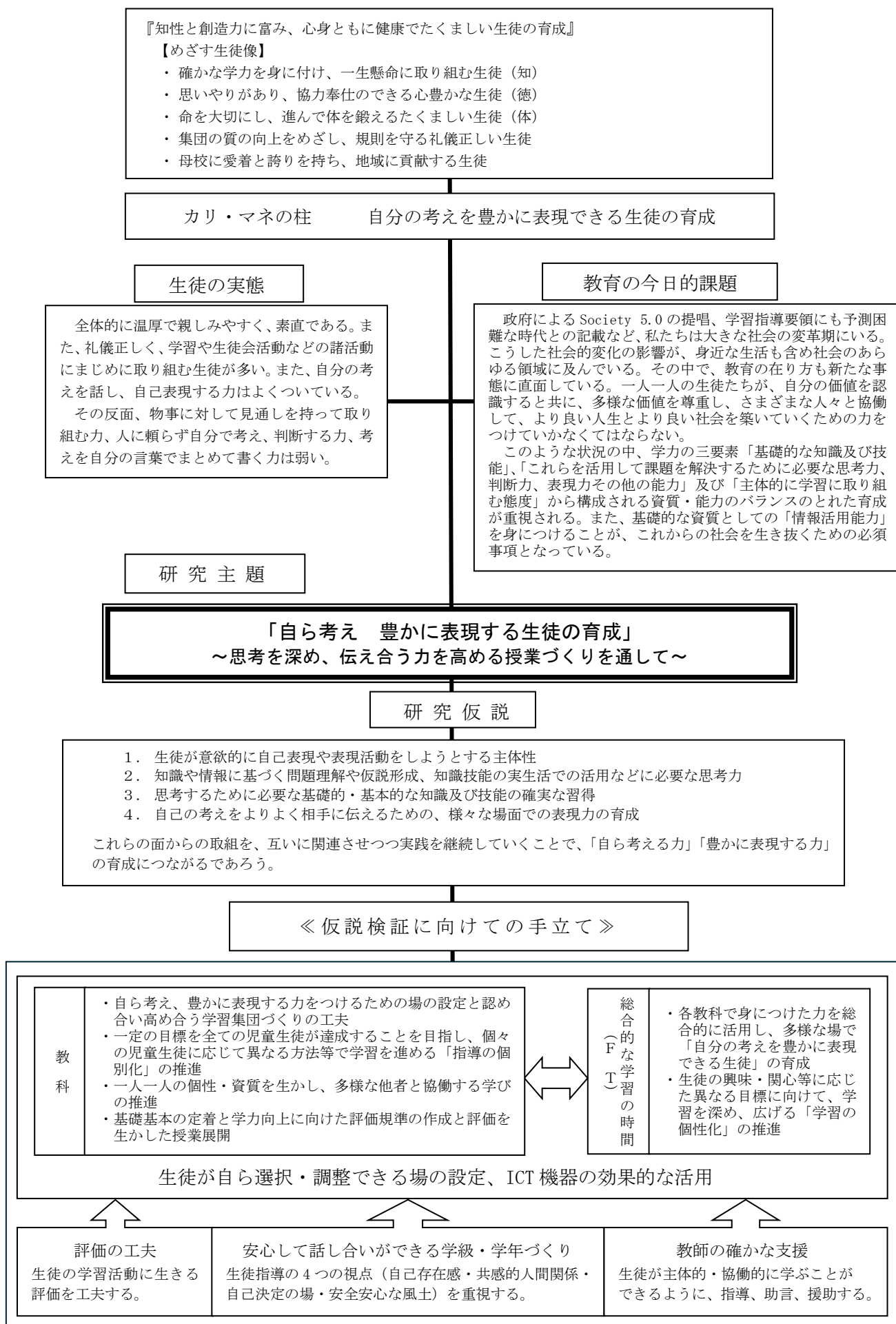
2 主題設定の理由

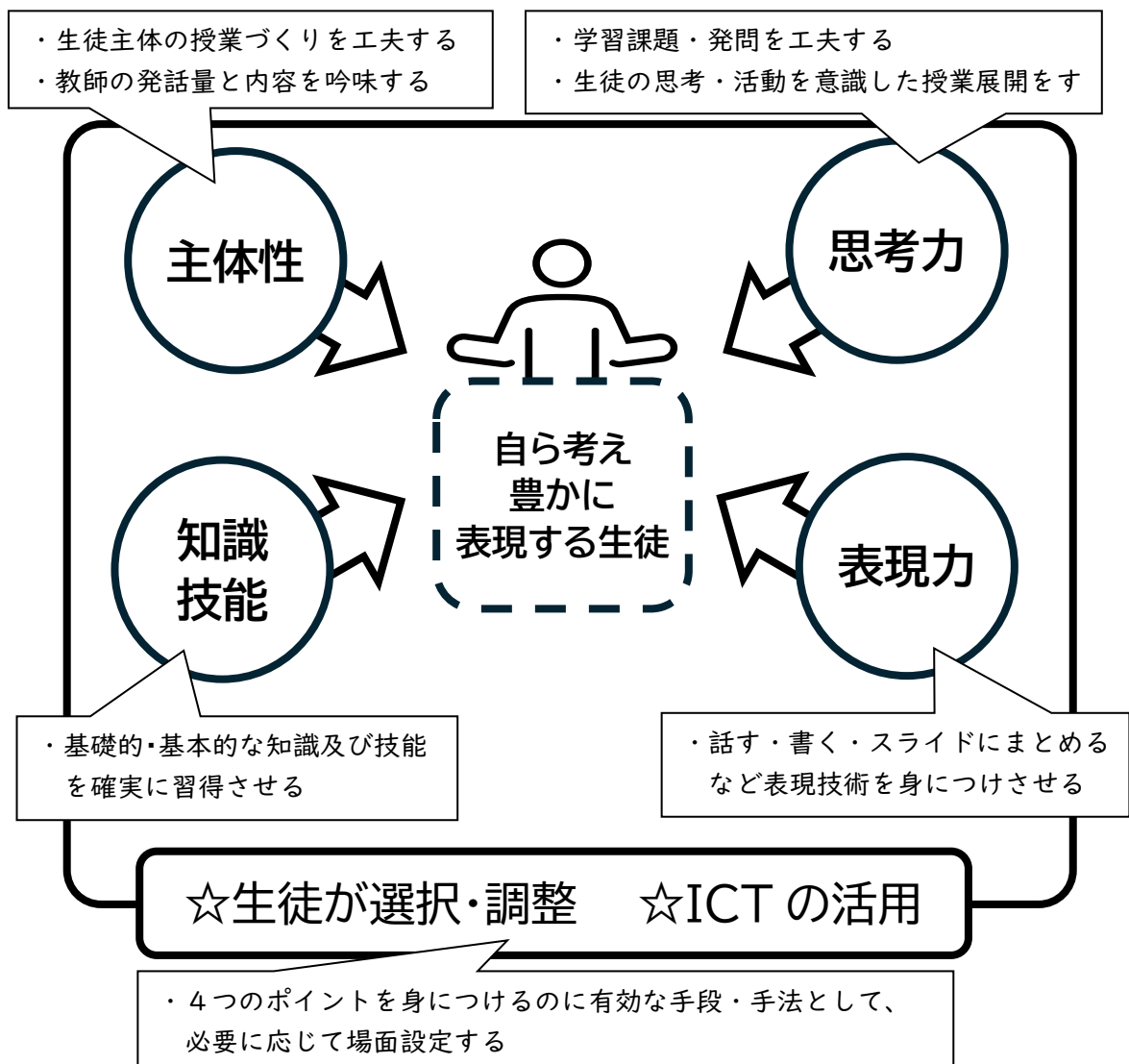
本校のカリ・マネの柱（＝教育目標を、資質能力を育成する日々の教育活動に活用できる見方でとらえ直したもの）は、「自分の考えを豊かに表現できる生徒の育成」である。

本校の生徒は、素直で、礼儀正しく、学習や生徒会活動などの諸活動に真面目に取り組む生徒が多い。また、自分の考えを話し、自己表現する力はよく身についている。その反面、物事に対して見通しを持って取り組む力、人に頼らず自分で考え、判断する力、考えを自分の言葉でまとめて書く力は弱い。

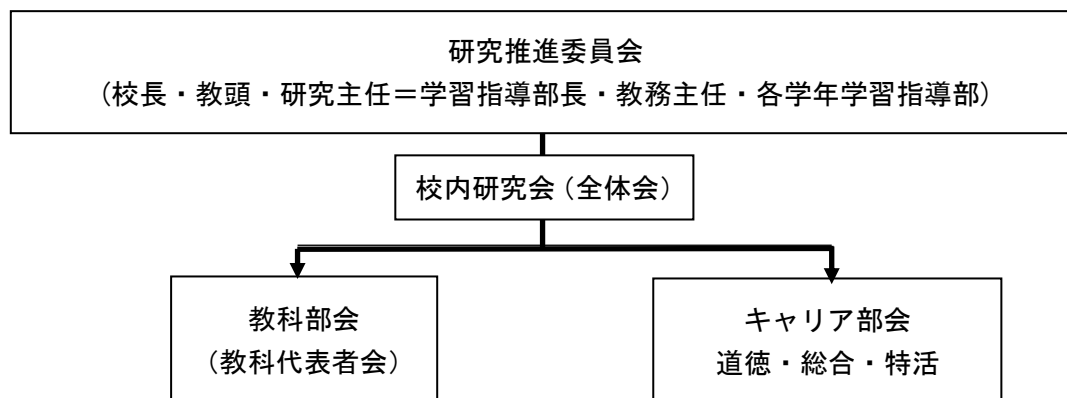
課題の発見・解決に向けて主体的・協働的に学ぶことができる授業をさらに推進するためには、生徒が根拠を持って自分の考えを表現することが必要不可欠である。生徒一人一人が深く考え、相手意識を持ってわかりやすく表現して伝え合うこと、またそのために、生徒が様々な場面で自ら選択し、参加することを意識した授業づくりを行っていきたいと考え、本主題を設定した。

3 研究の全体構想





4 研究組織



研究推進委員会【校長、教頭、◎福島、山田、北村、政近】

係	業務内容	福島	山田	北村	政近	各教科 代表	教頭
学校 研究	学校研究全体計画立案と推進 校内研究会、研究推進委員会運営 各種会議への参加、各種報告 指導主事訪問の準備、指導案形式の提案	◎	○	○			
	学年・学級経営案のとりまとめ	◎					
研修	研修計画と推進、県外研修計画	◎					○
	ミニ研修会（若プロ）	○	◎				○
教科 指導	学力調査・授業アンケートの分析と取組	◎		○	○	○	
GIGA スクール 構想	1人1台端末の効果的な活用	◎			○		
	GIGA 校内研修推進	◎			○		

※ 研究推進委員会は、学習指導部会としての会議も併せ持つこととする。

※ 研究推進委員会からの提案は、校内研究会の全体会（必要ならば職員会議も）を通し、共通理解を図る。その後、教科部会やキャリア部会、学年会、分掌部会で具体的な話し合い、実践を行う。

5 研究の経過（校内研修会、教科部会は学校研究に関わるものを掲載）

○ 1 学期

4 月 3 日（水）	校内研修会① <ul style="list-style-type: none"> ・ 学校研究の共通理解 <ul style="list-style-type: none"> －カリ・マネの柱について －生徒が選択する場面を設定する授業について －学習指導案の様式
4 月 10 日（水）	「令和の日本型学校教育の具現化に向けた実証研究」 第 1 回推進校連絡協議会 <ul style="list-style-type: none"> ・ 事業の概要説明 ・ 協議「令和の日本型学校教育について」
4 月 18 日（木）	教科部会① <ul style="list-style-type: none"> ・ 学校訪問に向けて「生徒が選択する場面」のある授業展開について協議
4 月 24 日（水）	教科部会② <ul style="list-style-type: none"> ・ 学校訪問に向けて学習指導案の検討 ・ 各種学力調査等の分析
4 月 25 日（木）	校内研修会② <ul style="list-style-type: none"> ・ 研究主任による提案授業 <ul style="list-style-type: none"> － 3 年理科「水溶液とイオン」 － 指導・助言者 金沢教育事務所 小橋 昌明 指導課長 金沢教育事務所 本崎 弥 指導主事 北陸学院大学 村井万寿夫 教授
5 月 23 日（木）	学校訪問 <ul style="list-style-type: none"> ・ 研究、公開授業、教科別分科会等より授業研究
6 月 5 日（水）	校内研修会③ <ul style="list-style-type: none"> ・ 学校訪問の振り返り
6 月 25 日（水）	教科部会③ <ul style="list-style-type: none"> ・ 1 学期の実践の振り返りと 2 学期の要請訪問に向けて ・ 学習指導案の様式変更について ・ 2 学期要請訪問における授業の重点 <ul style="list-style-type: none"> － 資質・能力の育成につながる選択（＝各教科の見方、考え方を働かせる選択） － ICT の活用を個別最適な学習に対応できるようデザインする

○ 夏季休業中

7月25日（木）	校内研修会④ <ul style="list-style-type: none"> ・ 学力調査、i-check の調査結果活用法について － 講師：東京書籍 吉本氏、西村氏
8月23日（金）	校内研修会⑤ <ul style="list-style-type: none"> ・ Figjam の活用法 ・ 講師：Google
8月27日（火）	高松中学校区 小中連絡協議会 <ul style="list-style-type: none"> ・ 全体会 <ul style="list-style-type: none"> － 「子供に委ねる授業」の実践発表（3校研究主任による） ・ 教科別分科会
8月27日（火）	「令和の日本型学校教育の具現化に向けた実証研究」 第2回推進校連絡協議会 <ul style="list-style-type: none"> ・ 推進校の1学期の取組について ・ 協議：各校の発表についての質疑応答 各校の取組から学んだこと
8月28日（水）	校内研修会⑥ <ul style="list-style-type: none"> ・ 講義・演習「カリキュラム・マネジメントについて」 <ul style="list-style-type: none"> － 講師 金沢大学学校教育学類 加藤 隆弘 准教授 － 講義：学びの変化とカリキュラムの役割 － 演習：カリキュラム・マップの作成（学年別）
夏季休業中	教科部会④ <ul style="list-style-type: none"> ・ 1学期学力向上プランにおける検証問題の振り返り ・ 2学期検証問題の設定 ・ 要請訪問における指導案検討

○ 2 学期

10 月 4 日（金）	学力向上フォーラム ・「一人一人の子供が主体的に学ぶ授業づくり」として研究主任が、今年度の取組について実践発表 巻末資料 2 参照
11 月 1 日（金）	県外視察① 視察者：福島 栄一 教諭 ・愛知県春日井市立高森台小学校 ー研究主題「ねばり強く主体的に学ぶ生徒の育成～情報活用能力の育成を通して～」
10 月 30 日（水）	校内研修会⑦ ・学力向上フォーラムでの発表内容の共有 ・来年度のカリキュラム・マネジメントの柱について ー「自ら学び 豊かに表現する生徒の育成」 変更 ・来年度の研究主題について ー「自ら学び高め合う生徒の育成～個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を通して」 変更 ・令和 8 年度までの学校研究の進め方
10 月 30 日（水）	公開研究会参加① 参加者：塚田 秀和 校長 ・加賀市立庄小学校 ー研究主題「進んで自分の学びを深め、学びの楽しさを実感する子の育成～個性的な学びと協働的な学びの一体的な充実に向けた授業づくりを通して～」
11 月 7 日（木）～ 12 月 17 日（火）	相互授業参観期間 ・「学び方を選択・調整する力の育成」「ICT 活用」に重点を置いた授業の実践と参観
11 月 8 日（金）	県外視察② 視察者：政近 顕純 教諭 ・岐阜市立陽南忠学校 ー研究主題「未来を自ら拓く力を身に付けた生徒の育成」 ー特に理科では「自然の事物・現象を科学的に問い続ける生徒の育成」について研究している。
11 月 13 日（水）	公開研究会参加② 視察者：塚田 秀和 校長、安原 広樹 教諭 ・石川県立金沢錦丘中学校 ー研究主題「自律的に学ぶ生徒の育成～生徒が自己有用感を感じられる授業づくりを通して～」
11 月 22 日（金）	県外視察③ 視察者：山田 章善 教諭 ・岐阜県郡上市立郡南中学校 ー研究主題「持続可能な社会の創り手の育成」 ー郡上市教委から研究開発学校の指定を受け、「ひと・まちづくり推進プロジェクト SDGs 源流 education 実証校として」カリキュラム・デザインの作成、カリキュラム・マネジメントの推進に取り組んでいる。
11 月 28 日（木）	校内研修会⑧ ・講義・演習「レジリエンスの科学的理解とその育て方」 ー講師：古市 俊郎 本校スクールカウンセラー

12月 4日（水）	校内研修会⑨ <ul style="list-style-type: none"> ・ 県外視察報告 ・ ワークショップ「学び続ける力について」 <ul style="list-style-type: none"> － 個別に学んでいる生徒の学習状況を授業内評価（見取り）は、どんな工夫をすればよいか。
12月 11日（水）	公開研究会参加③ 参加者：福島 栄一 教諭 <ul style="list-style-type: none"> ・ 加賀市立山代中学校 <ul style="list-style-type: none"> － 研究主題「主体的・対話的で深い学びを追究する生徒の育成～『個別最適な学び』と『協働的な学び』の一体的な充実を目指した授業づくりを通して～」 － 講演：一人一人が自ら関りを学ぶ学校をめざして － 講師：金沢大学学校教育学類 加藤 隆弘 准教授
12月 26日（木）	校内研修会⑩ <ul style="list-style-type: none"> ・ 山代中学校公開研究会報告 ・ 3学期の取組 <ul style="list-style-type: none"> － 高中スタイル（来年度から実施の授業スタイル）を意識した授業実践 ・ 学校研究のまとめ <ul style="list-style-type: none"> － 2学期までの実践で見られた課題と来年度の方向性 － 各教科における学校研究のまとめの視点について提案
12月 26日（木）	教科部会⑤ <ul style="list-style-type: none"> ・ 各教科における学校研究のまとめ ・ 2学期学力向上プランにおける検証問題の振り返り ・ 3学期検証問題（2年評価問題Ⅱを含む）の設定

※ 2学期に各教科の要請訪問を実施、訪問の期日・学習指導案は、**巻末資料3**参照

○ 3 学期

1 月 21 日（水）	校内研修会参加 参加者：福島 栄一 教諭、山田 章善 教諭 ・加賀市立山代中学校 ー講演：「主体的・対話的で深い学び」を改めて考える ー問い・対話・振り返りー ー講師：文部科学省初等中等教育局 田村 学 主任視学官
2 月 3 日（月）～	授業力向上の取組 ・令和 7 年度授業モデル（高中スタイル：巻末資料 1 参照）の実践と振り返り
2 月 20 日（木）	校内研修会⑪ ・令和 6 年度学校研究のまとめ ・令和 7 年度学校研究について（研究の現在地：巻末資料 2 参照）
2 月 28 日（金）	県外視察④ 視察者：塚田 秀和 校長 ・埼玉県久喜市立砂原小学校（リーディング D X スクール指定校） ー研究主題「『久喜市版未来の教室』構想を踏まえた汎用的な能力を育む先端技術を活用した STEAM 化された学び」 ー指導・講評：中村学園教育学部 山本 朋弘 教授
3 月 4 日（火）	「令和の日本型学校教育の具現化に向けた実証研究」 第 3 回推進校連絡協議会 ・協議：今年度の取組を踏まえた今後の方向性（推進校） 推進校の実践を管下に普及・啓発するための取組 （市町教委）
3 月 18 日（火）	校内研修会⑫ ・令和 7 年度学校研究の方針・取組について（管理運営計画の確認） 教科部会⑥ ・3 学期の取組における成果と課題 ・3 学期学力向上プランにおける検証問題の振り返り ・各教科における学校研究の具体化に向けた方策（教科で目指す生徒像の確認）

※ 年間を通して、毎週金曜日 3 限に研究推進委員会を設定

6 各教科の実践

(1) 国語科

① 要請訪問での授業整理会より

- ・生徒の学びの動きを綿密に想定することが大事。何でつまづくのかを手想して手立てを準備することが大事。
- ・何のために選択するのかが生徒に落ちていなければいけない。生徒に「学びたい」という思いを抱かせたうえで、手段や方法を選択させるといい。漢詩の授業では、観点とは伝えたいことを伝えるための道具なのに、観点を選択するための観点になってしまっていた。順番が逆だったかもしれない。

② 「選択する場面を意識した授業」の取組

- ・言語活動等で選択する場面を設定できた。
- ・言語活動の目的を伝え、選択の意味をどれだけ持たせることを意識した。
- ・生徒が「選択したい。」と思わせる選択肢を設定するために、生徒の資質・能力の見取りを重視した。

③ 「選択する場面を意識した授業」の実践より

(成果)

- ・生徒の見取りを行ったうえで、単元を計画したりゴールとなる言語活動を設定したりするなどの授業の計画を練ることができた。
- ・生徒に活動の目的を示すことで、後期の授業アンケートの「授業がわかりやすい」の数値が向上した。

(課題と改善策)

- ・選択のための選択にならないよう、常に生徒の「学びたい」という思いを引き出すことが優先すべき。これに対し、授業の目的や単元計画を生徒に示し、なぜこの活動をするのか、その日の授業が計画のどの段階なのかを生徒に明示していく。
- ・授業づくりの際に、生徒のつまづきを予想し、それに対する手立てを考える必要がある。普段の授業を意識して組み立てていく。

(2) 社会科

① 要請訪問での授業整理会より

- ・小学校でも自然に対応した生活の工夫については勉強するので、中学校の地理ではぜひ、自然に働きかけて住めるようにした工夫について触れてほしい。
- ・どちらが北海道なのかは先に教えてしまって、「なぜそのような違いがあるのか」を説明させるとよい。

② 「選択する場面を意識した授業」の取組

- ・写真が世界のどこで撮影されたものなのか、教科書・地図帳・インターネットなどを使って推理する。(1年生)
- ・世界に影響を与えている「アメリカ生まれ」のものを、教科書・資料集・書籍・インターネットなどを使って調べる。(1年生)
- ・配布された資料から1つ以上好きなものを選び、なぜ奈良時代の一般人の生活は

苦しいのかについて、同じものを選んだ人・違うものを選んだ人などと自由に意見交流し、個人でまとめる。(1年生)

- ・江戸時代の産業について、教科書・地図帳・インターネットなどを使って調べる。(2年生)

- ・日本の諸地域のレポートテーマ地域と旅行計画を生徒自身が設定し、まとめる。(2年生)

③ 「選択する場面を意識した授業」

(成果)

- ・生徒が、教科書やインターネットを使って調べることに慣れてきた。その上で、教科書を使った方が楽だ、やチャット GTP を使いたい、などそれぞれの場面で最適な道具を選べるようになってきた。

(課題と改善策)

- ・生徒が活動している際の見取りをどうすればよいか
→あらかじめ、「この内容が入っていてほしい」というキーワードを教師側が準備しておき、その内容が入っているかという視点で机間巡視する(入っていない生徒には考える視点を与える)。

(3) 数学科

① 要請訪問での授業整理会より

- ・生徒が共同で考える場面で上手くいかないところは、ねらいに向けて、違う方法をとるか、もう一度考え直させるかを選ばせてもよい。
- ・教師が今日つけたい力は何かを意識して、生徒が考えを持つためにその子にとって最適な方法を自己決定させる。

② 「選択する場面を意識した授業」の取組

- ・主に、学習スタイルを選択させた。問題を解く際に、協力して問題を解くか、個人で考えるかを選択させている。

③ 「選択する場面を意識した授業」

(成果)

- ・生徒の手が止まっているときに、自分から進んで質問できる環境を整えることで、諦めて思考を止める生徒が少なくなった。

(課題と改善策)

- ・自分から進んで質問できる環境を整えたが、その際、教え合いのルールについての指導が不十分だったため、理解を深める生徒と答えを聞いて理解しようとししない生徒で2極化させてしまった。そこで、ルールを共通理解し、本時の課題が定着しているかを確認する時間を確保する。

(4) 理科

① 要請訪問での授業整理会より

- ・これまでやってこなかった授業の進め方なので、やってみることで分かることが多い。相談をしながら挑戦していく。

② 「選択する場面を意識した授業」の取組

- ・実験する教材を選択し実験を行う。
- ・教科書やクロムブック、資料集など学ぶために使うものを選択した。
- ・実験をどのように進めるか、誰と進めるかを選択した。

③ 「選択する場面を意識した授業」

(成果)

- ・生徒が自分たちで考えながら進めることができる。
- ・意欲的に学んでいる。

(課題と改善策)

- ・個別に活動をしていて協働的な学習にならないこともあるので、生徒と生徒がつながれるような声かけをしていく。
- ・協働的な学びを進めるためにも、生徒が見ても他の生徒が何をしているのかが分かりやすいものを工夫していく。

(5) 音楽科

① 要請訪問での授業整理会より

- ・ソングメーカーを使っでの創作活動は、4年ほど続けているが、毎年反省点をふまえて改善してきた。今年の改善点は、「音を意識して選ぶ、意図を持って創作する」ということに集中するため、「音を重ねない、単旋律のメロディ」をつくることとした。また、「覚えやすいか」ということも条件の一つとした。条件を絞り、繰り返し授業の中で「歌ってみよう、覚えやすいか」などと押さえることで、「適当に音を散らせてつくる」ということは防げ、「意図を持った音選び」につなげることができたと思う。
- ・授業の初めに生徒作品を例に、旋律の「善し悪し」を判断する視点を示し、解説したことで、生徒はどう工夫したらよいかを明確に持つことができた。
- ・その作品のポイントとなる「音楽的要素」について、教師が一方的に解説するだけでなく、生徒に問いかけ、生徒自らが気づく場面を仕組んでも良かったのではないかな。
- ・創作した作品について、例えば「どうして覚えやすいのか、歌いやすいのか」(感受)と、その理由(知覚)について、つなげられるような授業展開ができるとよい。
- ・ソングメーカーでつくった作品を、「楽譜にするとどうなるか」、「リコーダーで演奏する」など、別の領域につなげたり、発展させる方法も考えていけるとよい。

② 「選択する場面を意識した授業」の取組

- ・1～3年、リコーダーの授業で、既習曲の中から選んで、テストを受けさせた。
- ・合唱コンクールに向けての練習では、目標を各パート毎にパートリーダーを中心に

設定させた。

③ 「選択する場面を意識した授業」

（成果）

- ・合唱コンクールの取り組みでは、自分事として課題を自ら考え設定し、振り返り、次へとつなげる様子が見られた。
- ・リコーダーの取り組みでは、自分の技能にあった曲を選択し、演奏速度も自分で設定することで、苦手な生徒も主体的に取り組むことができた。

（課題と改善策）

- ・選択場面を設定できる授業展開について、まだまだ限定的なので、他校の例を学び広げていきたい。また、思考力が育つような効果的な方法で取り入れていきたい。

（6）美術科

① 要請訪問での授業整理会より

- ・子供が自分の考えを持っていたから、自ら話に行っていた。
- ・生徒を引きつけるポイントが、1時間の中にたくさんちりばめられていたことで、興味関心が持続し、主体的に動いていた。
- ・1時間の授業がストーリーのようになっていて流れが自然だった。起承転結がある。授業者が授業のねらいが明確に見えているのが伝わった。それが生徒が迷わないような道筋になっている。そのことで子どもが安心して授業ができ、変容が期待できる内容だった。

② 「選択する場面を意識した授業」の取組

- ・課題に迫るタイミングで学習形態を、考えたい内容に合わせて動けるよう選択した。また、タブレットで全ての情報を得られると、考えたい視点からの深まりに欠けると考え、得られる情報を教室の中で場所を分けて提示した。例えば、実物大の作品がある場所、過去の作品との比較が見られる場所、作者の生涯が知れる場所、タブレットには高画質の作品画像のみ配信するなど行った。
- ・また材料の選択では、なるべく多くの選択肢が得られるよう準備した。

③ 「選択する場面を意識した授業」

（成果）

- ・言語活動として、本時のストーリーの中で自然なタイミングで選択場面が入ったことで、「この人と話したい」「この場所で話したい」など、生徒が考えたいポイントに従って、然るべき人や所に行って話していた。まさに協働的で個別最適な学習の場面だった。自分の思考の流れに沿って決めていくのもよかった。

（課題と改善策）

- ・選択させる場面や、考えさせる場面においては、生徒の思考の流れを「知りたい」というところまで持って行くストーリー展開の工夫が大切だと考える。今後も大切にしていきたい。

(7) 保健体育科

① 要請訪問での授業整理会より

- ・導入の工夫が良く、本時の見通しを持たせることができていた。
- ・生徒が調べていく中で重要なキーワードなどをしっかりと拾って全体に共有することが必要 → 生徒の見取りをしっかりとしなければならない。

② 「選択する場面を意識した授業」の取組

- ・陸上競技のリレーの授業でより良いバトンパスに向けた自己の課題を選択、改善方法の選択
- ・マット運動で自分の取り組む技の選択。
- ・ダンスの授業で目標達成に向けた練習方法の選択

③ 「選択する場面を意識した授業」

(成果)

- ・ほとんどの生徒は自ら技の習得や完成度を高めようとして取り組んでいた。自分の現状を踏まえ技を選んでいった。
- ・仲間同士で「補助お願い」や「動画でとって」など協力して学習に取り組む姿が見られた。
- ・自分の現状に合わせて学習にこだわって行っている生徒が多かった。
- ・できる生徒に教えてもらいに行く（男女越えて）姿が見られた。

(課題と改善策)

- ・運動が苦手な生徒にとっての支援を充実していく必要があった。
- ・関係のないことをしないか常に気をはっていなければならない。
- ・振り返りを充実させていきたい。

(8) 英語科

① 要請訪問での授業整理会より

- ・生徒がどの基準を目標にするか選択させることで、授業の意識が変わると思う。生徒たちが自分たちの目指すレベルも自分で選んでいて良かった。
- ・自分たちの力で頑張ろうとしていて良かった。
- ・友達が書いたものを見られるようにしておけば、最初の10分何もできないということはないのでは？標準コースでも基礎レベルの子たちも取りこぼさないような手立てが必要。
- ・個別や協働の中で中間指導をしていくと良い。

② 「選択する場面を意識した授業」の取組

- ・単元ゴールを達成するために、ループリックを使って評価基準を共有した。その際、どのレベルを目標に活動していくか、生徒に選択させた。
- ・授業で活動をする際、どのような学習形態で行うかの選択をさせた。

③ 「選択する場面を意識した授業」

(成果)

- ・学校評価アンケートの授業アンケートで、「授業では、課題解決に向けて、自分で考

え、自分から取り組んでいる」の肯定的回答率が上がった。

(課題と改善策)

- ・個別最適な授業をしていく際に、できる子は伸びていくが、できない子をどうカバーしていくか難しい。

(9) 各教科で実施した選択

選択の種類	国語科	社会科	数学科	理科
① 目 標	<ul style="list-style-type: none"> 教材に対し、生徒が出した複数の疑問や課題の中から、自分が解決したいものを選択させる。 選択させたものをもとに、さらに選択させて、自分ならではの課題を立てる。 	<ul style="list-style-type: none"> 「日本の都道府県」について、自分のできる限り分け方を考える（たくさん考えられる人はたくさん出す）。 	<ul style="list-style-type: none"> A 評価の課題と B 評価の課題を準備して、自分の学習状況に応じて選択する。 	<ul style="list-style-type: none"> 気体を調べる単元において、いくつかの「気体が発生する実験」のなかから自分が調べたい実験を選択して取り組む。
② 時 間	<ul style="list-style-type: none"> 作業の時間のうち、調べる時間・精査する時間・まとめる時間など各自で時間配分を選択する。 一人で考える時間にするか級友と相談する時間にするか選択する。 	<ul style="list-style-type: none"> 「なぜ江戸幕府は長く続いたのか」について、「①大名のコントロール」「②身分の固定化」「③鎖国」からもっとも影響があったと思うものを1つ選び、同じものを選んだ人・違うものを選んだ人などと自由に意見交流し、個人でまとめる。(②+④) 	<ul style="list-style-type: none"> 「自分で考える時間」にするか「友達と考える時間」にするか自分で決める 	<ul style="list-style-type: none"> 分かったことを話し合う時間と、発表用の資料を作る時間を、決められた時間の範囲で決める。 調べてほしいことや考えてほしいことを一覧で提示して、自分のペースで取り組む。(自由進度学習)
③ 学習方法	<ul style="list-style-type: none"> クロームブック、図書、便覧、同じ意見をもった級友、というふうにより、情報収集源を選択する。 教科書に載っている教材が、載っていない教材か、参考にするものを選択する。 教師が準備したヒントを得るか得ないかを選択する。 	<ul style="list-style-type: none"> 江戸時代は、どの身分の人にとって最も暮らしやすかったのか」について、どのような資料があれば自分の意見を補強できるか考えさせ、教科書やクロームブックを使って情報を収集させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ヒントカードを自分の見たいタイミングで見れるような形をとる。 YouTube の解説動画を見たいタイミングで見れるようにする。 答えを好きなタイミングで見れるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 地学分野では、自分で参考になる動画を探し、お互いに共有して理解を深めた。 エネルギー分野（電流・電圧）において、測定点を自分たちで決めて実験を行った。
④ 学習形態	<ul style="list-style-type: none"> 個人、ペア、グループの中から選択する。 意見を参考にする際、共通の意見の人か、相違する意見の人かを選択する。 	<ul style="list-style-type: none"> 配布された資料から1つ以上好きなものを選び、なぜ奈良時代の一般人の生活は苦しいのかについて、同じものを選んだ人・違うものを選んだ人など自由に意見交流し、個人でまとめる。(④+⑤) 日本が歳出額を増やすべき分野を1つ選び、同じものを選んだ人1人以上とグループを組み、理由をスライドにまとめて発表する。(④+⑤) 	<ul style="list-style-type: none"> 一人で考えるかみんなで考えるかを選ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> やりたい人と自由にさせる。実験器具は空いた机にセットしておき、必要になったらそこから自分で分たてで調べる（凸レンズの光の進み方）
⑤ 道具（教材）	<ul style="list-style-type: none"> 作文や創作物を作成する際に、クロームを利用するか作文用紙を使用するか選択する。 語句調べをする際に、クロームの goo 辞書か紙媒体の辞書かを選択する。 本文をラインマーカーする際に、シャープペンかマーカーか選択する。 	<ul style="list-style-type: none"> 大正デモクラシーについて、それぞれの社会運動が普通選挙につながっていく様子をスライドやホワイトボードなどを使ってまとめさせる。 写真が世界のどこで撮影されたものなのか、教科書・地図帳・インターネットなどを使って推理する。 世界に影響を与えている「アメリカ生まれ」のもの、教科書・資料集・書籍・インターネットなどを使って調べる。 	<ul style="list-style-type: none"> ノートでするか、chromebook でするか考える。 道具で実験するか、計算するか考えさせる。 立体的な単元において、実物をみるか、3D をみるかを決めさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 身近な液体（醤油など）の成分ごとに水溶液を作成し、それぞれの性質を調べることとにもなる液体の性質に迫る。 実験用具と方法を選択する。 意見を発表する際に、プレゼン・ホワイトボードアプリなどのツールから自分で選ぶ。 蒸留の実験において、集める液体の体積を自分たちで決めて、集まった液体が何であるかについて考えた。
⑥ 問題（難易度）	<ul style="list-style-type: none"> 文法の確認問題をする際に、基礎の問題か、応用の問題かを選択する。 見とりの上、深化がもう一步の生徒は、発展的な課題を選択する。 読解の課題に取り組む際、習熟度に合わせて、浅い課題か深い課題かを選択する。 	<ul style="list-style-type: none"> 時差の問題を難易度別に用意し、終わった人は +α 問題に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> 適用問題をレベル別にする。 	<ul style="list-style-type: none"> 電流電圧の計算問題で、レベル1～3のプリントを自分で選んで取り組む

(9) 各教科で実施した選択

選択の種類	音楽科	美術科	保健体育科	英語科
① 目 標	<ul style="list-style-type: none"> 合唱練習で、個人の目標、またはパートの目標を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 1時間の自分の作品制作の進捗目安を決める。 どのような目的のデザインにするか自分で設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> 個人（チーム）の課題に合わせて課題（目標）を設定する 例：ダンス（動きを描いて踊りたい、動きの切れを意識して踊りたい、動きを合わせていないポイントや美しいくないポイントを各自で目標を持って行う。） 	<ul style="list-style-type: none"> 共通のゴールの言語活動の遂行に向けて、生徒と話し合いながら、CAN-DO リストを基に評価規程を作成する。 学習経験（言語活動歴や振り返りシート等）や単元のゴールの活動を通して体験して得た気づきから、自身の課題を捉え、この単元でつきたい表現内容や表現方法を考える。 A 規程については、生徒それぞれが自身の目指す姿をイメージして、自己目標を決める。
② 時 間	<ul style="list-style-type: none"> 1時間の中に、個人で練習したり、グループで練習したりする時間を決めさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 1時間の見直しを持って、制作内容を切り替えたり、片付けたりする。 考える時間と制作の時間を、自分にあった時間配分で使う。 	<ul style="list-style-type: none"> 課題を克服するために練習の時間の使い方を工夫する。 例：陸上のハードル（生徒A；アプローチャ5分、ハードリング10分、生徒；ハードリング10分、映像でチェック10分）など 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の学力差や習熟にかかる時間差、学習スタイルの違いに合わせて、一斉授業と個別の学習を組み合わせる。 個別での練習場面では、生徒が見通しを持てるようにタスクや手順の一例を示す。
③ 学習方法	<ul style="list-style-type: none"> 知識理解や技能習得の場面で色々な方法で学習する。（本、web、動画など） 	<ul style="list-style-type: none"> イメージの具体化のために、タブレットか図書が資料が選択し使用する。 	<ul style="list-style-type: none"> 知識理解の場面で色々な方法で知識を得る 例：映像、実技本など 	<ul style="list-style-type: none"> 課題設定の場面で個人がテーマを決める。 発表練習の場面で、リハーサル時にビデオ撮影（発表動画）をする。→自己評価、他者評価、先生のモデルを見る、デジタル教科書を見る。
④ 学習形態	<ul style="list-style-type: none"> 個人で練習するか、グループで練習するか。 音楽作りは一人で創作するか、グループで創作するか。 	<ul style="list-style-type: none"> 個で制作するか、共同で企画を進めるか選択。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の課題を克服するために練習のやり方を工夫する。 例：マット運動（1人で練習する。友達にアドバイスをもらいながら行う） 	<ul style="list-style-type: none"> 個人、ペア、4人グループ、全体（共有）
⑤ 道具（教材）	<ul style="list-style-type: none"> アンサンブル活動は、使用する楽器を選ぶ。：リコーダー、箏、ギター 音楽作りはアプリを選ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> 思いに合わせて、描く画材や技法を選択する。 描くモチーフを自分で選択する。 	<ul style="list-style-type: none"> 個人の課題を克服するために適切な練習の場を選ぶ。 例：マット運動（セーフティマットやロイター板を使う） 	<ul style="list-style-type: none"> クロームブック（ジャムボード、オクリンク、スライド等）
⑥ 問題（難易度）	<ul style="list-style-type: none"> テストや学習で取り組む楽曲を選ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分のやりたいことと制作スピードに合わせたデザインの選択。 	<ul style="list-style-type: none"> 個人（チーム）の課題に合わせて課題（目標）を設定する 例：バレーボール（チームのレベルに合わせて、ラリーを続けるのか、三段攻撃をするのかを決める。） 	<ul style="list-style-type: none"> ヒントをつける。 習熟度別に選択する。

7 研究のまとめ

(1) 成果

- ・「生徒が学び方を選択する」「生徒に委ねる」ことを意識した授業実践が増えた。
- ・端末を使用するタイミングや活用について、生徒の主体的な判断を促す授業が増えた。
- ・「令和の日本型学校教育の具現化」の推進に関して、来年度の授業モデル（高中スタイル）及び研究の方向性を定めることができた。（巻末資料1・2参照）
- ・研究推進委員会の他、教職員が自発的に学習会を設定し、カリ・マネの柱から研究主題、授業スタイルと学びの連続性について検討し、カリ・マネの柱、研究主題を見直した。

カリ・マネの柱：「自ら学び 豊かに表現する生徒の育成」

研究主題：「自ら学び高め合う生徒の育成
～個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を通して～」

(2) 課題

- ・生徒が学習形態を選択する場面において、各教科等の特質に応じた見方・考え方を働かせる選択になっていないことがある。
- ・「個別最適な学び」をする生徒の学習の評価、進捗を見取り、「協働的な学び」をファシリテートする教師のスキルが必要である。
- ・学び合う場面において、友達に頼りがちで、自分で考えたり、調べたりする粘り強さに欠けるようすがみられる。

(3) 今後に向けて

- ・来年度当初に学習集会等の機会を設け、具体的に授業モデル（高中スタイル）を提示し、教職員と生徒間で共通理解を図る。
- ・研究推進に必要な取組を定め、校内の各分掌と連携した4部会（以下に示す）を設置し研究を進める。
 - ① 学習評価（教師の見取りを含む）の分析、検証
 - ② 人間関係づくり（学習指導と生徒指導の一体化）
 - ③ 基礎学力向上
 - ④ カリキュラム・マネジメントの推進
- ・全教職員で授業づくりを実践し、実績や経験を積み重ねるとともに、成果や課題を共有する。

= 資料 1 =

高中スタイル（令和 7 年度 授業モデル）

= 資料 2 =

「令和の日本型学校教育の具現化に向けた実証研究」

学校研究の現在地

高中スタイル（令和7年度 授業モデル）

授業前:教師の準備

- ・生徒が単元（題材）における本時の位置、学習内容を理解し授業に臨めるようにする（前時の終末、classroomの活用等）
- ・生徒が選択する学習方法等を予測し、教材等の準備をする

導入:7分以内

- ・生徒が本時の課題をとらえる
- ・生徒が本時の目標（授業後の到達イメージ、評価基準）を具体的に知る（単元計画、ルーブリック等）

展開:可能な限り長く時間を設定

生徒

- ・自分の考えを持ち、自由に学習を進める（個別最適な学び、見方・考え方を働かせる選択）
- ・必要に応じて他の生徒と話し合う（動的な協働）
- ・他生徒の発信を見て、学習を進めることも可（静的な協働）
- ・自分の進捗、学習成果を発信する

教師

- ・生徒の学習の評及び価進捗を見取り、「協働的な学び」につなげるようファシリテートする
- ・全体指導は最低限とする
- ・生徒の学習をリアルタイムで評価し、学習の方向性を確認する（誤りがある場合は修正に導く助言する）

終末:5分

- ・生徒の手で、本時のまとめを作り上げる
- ・本時の学びを明らかにする（できたこととできなかったことを明らかにし、次時の学習内容について見通しを持たせる）

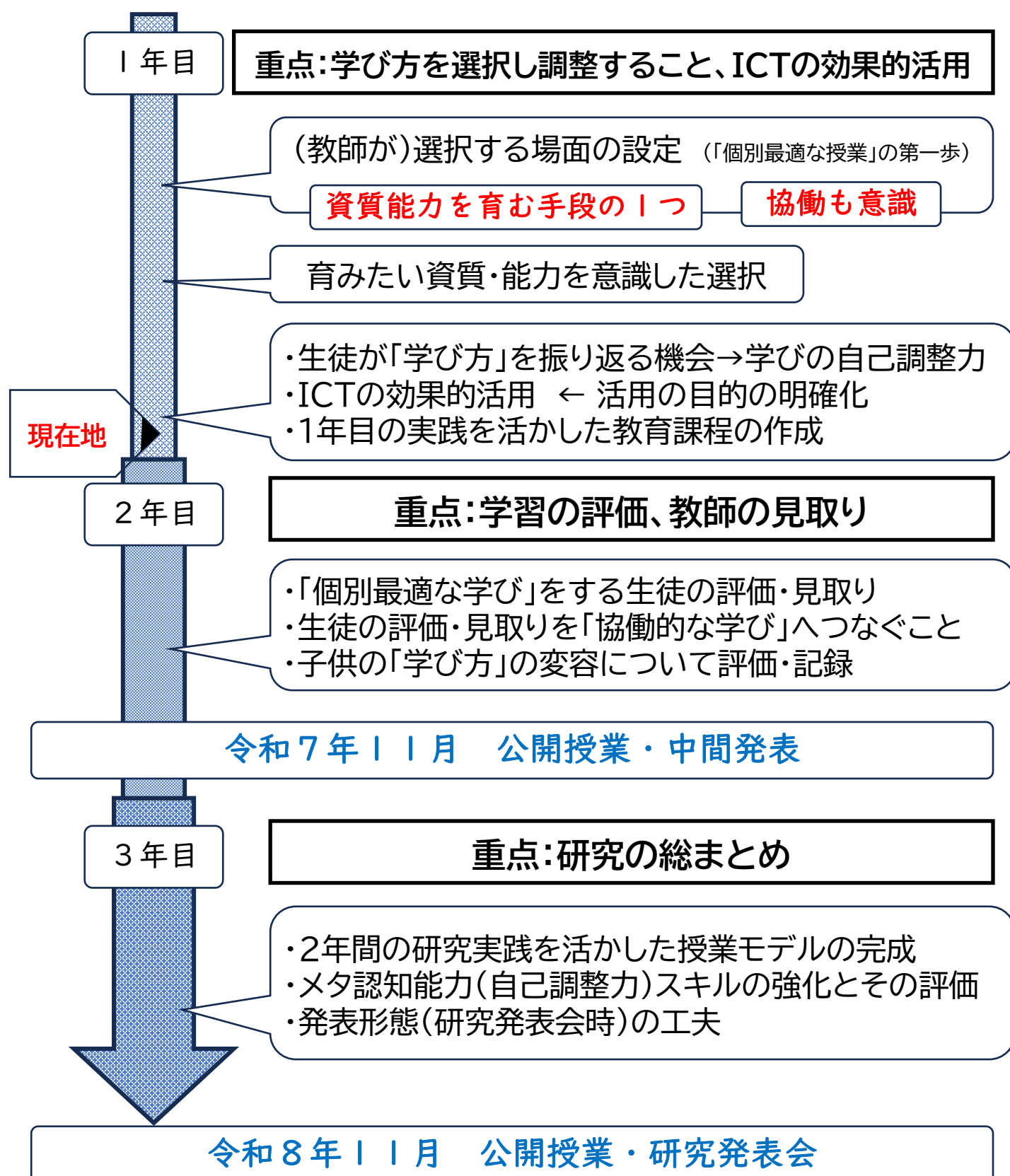
学習の振り返り:5分

- ・「学び方」についての振り返りを書かせる。（100字以上）
- ・学校共通のフォーマットを使用する（スプレッドシート）

「令和の日本型学校教育の具現化に向けた実証研究」

学校研究の現在地

「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を目指して



学習指導案（２学期要請訪問）

教 科	学年組 単元（題材）	日 時	指導案検討日 （セット訪問）	授業者	指導者	ページ
国語科	2年3組 その漢詩の風景は？	12月9日（月） 5限	8月23日（金）	瀧本 アンナ	金沢教育事務所 興石 奈央 指導主事	23
	3年3組 二十歳の自分へ 十五の手紙	12月9日（月） 6限		安原 広樹		26
社会科	2年1組 北海道地方	12月6日（金） 6限		升田 悠真	金沢教育事務所 瀬古 雅大 指導主事	29
数学科	3年（標準コース） 相似な図形	11月19日（月） 6限		高名 智之	金沢教育事務所 川本 実穂 指導主事	33
理 科	1年2組 いろいろな気体と その性質	10月7日（月） 6限	8月23日（金）	政近 顕純	金沢教育事務所 本崎 弥 指導主事	38
保健体育科	1年1組 心身の機能の発達と 心の健康	9月12日（木） 6限		石垣 孝明	金沢教育事務所 勝崎 奈々指 導主事 北陸学院大学 村井 万寿夫 教授	42
英語科	3年（標準コース） Learning CIVICS In English	10月21日（月） 6限	9月19日（木）	上谷 由喜	金沢教育事務所 上野 郁子 指導主事	45

2年3組 国語科 学習指導案

令和6年12月9日(月) 第5限

場 所 2年3組教室

指導者 瀧本 アンナ

1 単元名 その漢詩の風景は？漢詩の良さを伝える解説文を書こう。

2 単元の目標

- (1) 「漢詩の風景」の現代語訳や語注などを手掛かりに作品を読むことを通して、古典に表れたものの見方や考え方をすることができる (知識及び技能) (3) ア
- (2) 「漢詩の風景」の学習を通し、観点を明確にして文章を比較するなどし、文章の構成や論理の展開、表現の効果について考えることができる。(思考力、判断力、表現力等) C (1) エ
- (3) 言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・「漢詩の風景」の現代語訳や語注などを手掛かりに作品を読むことを通して、古典に表れたものの見方や考え方を知っている。(1) イ	・「漢詩の風景」の学習を通し、観点を明確にして文章を比較するなどし、文章の構成や論理の展開、表現の効果について考えている。C (1) エ	・学習の見通しをもって、粘り強く漢詩や現代語訳を読み、自身が感じる漢詩の良さを観点を明確にして説明しようとしている。

4 指導にあたって

(1) 教材観

本教材では、「春暁」「絶句」「黄鶴楼にて孟浩然の広陵に之くを送る」の3つの漢詩について、石川忠久氏が解説を添えている。解説文では、漢詩中の言葉の意味やその言葉がもつ雰囲気や丁寧な解説され、読者は漢詩の表す風景や作者の心情を読み取ることができる。また、中国の土地の地理的位置や、作者の置かれた状況も丁寧に解説されているため、作品が書かれた背景も知ることができる。詩の中には、季節への思いや、故郷に帰れない悲しみ、友人との別れの悲しみなど、現代人にも共感できる心情が多く盛り込まれている。

(2) 生徒観

1年時に、「矛盾」で漢文について学習したが、「矛盾」の本文は書き下し文のため、生徒たちが教科書で漢文と向き合うのは初めてである。初めて漢文に触れ、「難しい。」と感じる生徒も多いと予想できる。また、今年度前期の教科アンケートでは、「授業の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる。」という質問に肯定的に回答する生徒が約92%と、課題解決に向けて意欲的だと自覚する生徒が多かった。一方で、「国語が好きである。」という問への肯定的回答は62.8%と低く、国語には苦手意識をもつ生徒が一定数いる。生徒の意欲を生かしつつ、生徒がやりがいや達成感を味わえるような工夫が必要だと考える。

(3) 教材観

生徒が初めて漢詩を読む際は、どんな詩を想像したか、どんな情景を思い浮かべたかを共有するなどし、まず漢詩の面白さを実感させたい。その上で、それぞれの漢詩の良さは何かを、生徒自身にも解説してもらうことを伝え、生徒独自の解説文を書かせたい。

解説文を書くにあたり、漢詩のどこに注目すればいいのかを、石川氏の解説文を読んで考える時間を取りたい。石川氏は「春暁」では構成や展開にふれ、「絶句」では色彩と対比される筆者の悲しみを取り上げている。また、「黄鶴楼にて…」では、倒置を用いて巧みに表現される結句によって、筆者の別離の悲しみが表現されている解説している。石川氏がどのような観点で説明しているのかを生徒に読み取らせたい。

解説文を書く際は、授業者が教科書以外のものをいくつか選び、その中から生徒が解説したいものを選ばせたい。また、解説の観点も複数提示し、自身が選んだ詩に合うものを選ばせたい。解説文を書いたあとは、生徒同士で文章を交流させたい。

5 単元の指導・評価計画（総時数5時間）（○…「評定に用いる評価」、●…「学習改善につなげる評価」）

時	主な学習活動	知	思	態	評価規準
1 ・ 2	「春暁」「絶句」「黄鶴楼にて…」の漢詩を読み、どのような風景が伝わってくるか考えた上で、解説文を読み、どのような観点で漢詩が説明されているのか読み取る。	○			・「漢詩の風景」の現代語訳や語注などを手掛かりに作品を読むことを通して、古典に表れたものの見方や考え方を知ろうとしている。 (観察、ワークシート)
3 ・ 4	教科書に載っているもの以外の漢詩を1つ選び、その漢詩の解説文を観点を示して書く。		○		・「漢詩の風景」の学習を通し、観点を明確にして文章を比較するなどし、文章の構成や論理の展開、表現の効果について考えることができる。 (観察、タブレット)
5	お互いの解説文を読み、漢詩の表現の効果についての考えを深める。			○	・学習の見通しをもって、粘り強く漢詩や現代語訳を読み、自身が感じる漢詩の良さを観点を明確にして説明しようとしている。 (観察、タブレット)

6 本時の学習（3／5）

(1) 題材名 漢詩の風景

(2) ねらい

「漢詩の風景」の学習を通し、観点を明確にして文章を比較するなどし、文章の構成や論理の展開、表現の効果について考えることができる。
(思考力、判断力、表現力等)

(3) 思考を深める授業展開の工夫

漢詩を複数提示し、情景と心情を解説しやすいと感じるものを生徒に選ばせる。また、どこに注目したかの観点も生徒に選ばせる。

(4) 活用する既習事項

今に生きる言葉 「言葉」をもつ鳥、シジュウカラ 表現技法

(5) 準備

スライド、ワークシート、タブレット端末、資料、資料集

(6) 指導過程

時間	学 習 活 動	指導上の留意点（・）と評価（◎） 評価に対する支援（○）
導入 5	1 既習を確認する。 ・「春暁」で作者は、転句を「夜」「風雨」と暗く書き意外性をもたせたり、結句で花びらの散った情景を書き鮮やかな余韻を残したりと構成を工夫している。 ・「絶句」で作者は、前半で色鮮やかな情景を書いてから、後半で故郷に帰れない悲しい心情を書くことで悲しみが際立つように詩を展開させている。	・漢詩の良さを読み取る上で注目した観点をいくつか確認する。 ・スライドを利用し、時間をかけすぎないようにする。
3	2 本時の課題をつかむ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">自分の「漢詩の風景」が伝わる解説文を書こう。</div>	
10	3 候補の漢詩を音読し、登場するものを簡単に確認する ・作者は「夜」に「月」を見上げているね。 ・「雪」の中「翁」が釣りをしているね。	・確認する内容は詩に登場するものに絞り、他の情報は生徒に読み取らせる。

5	<p>4 どの詩のどういうところが良いと思うか、ペアで話合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「静夜思」は、月を見て故郷を思っているのが切なくて良い。 ・「江雪」は、真っ白な雪のイメージの中で、おじいさんが1人で釣りをしているのがひっそりとしていて良い。 	
深化 2 2	<p>5 観点を確認する。★③方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・風景については、景色、様子、色彩、音、動きなど具体的に上げられるね。 ・構成、展開（つながり）、表現の工夫についても注目しよう。 <p>6 候補の漢詩から、自分が解説したいものを選び、解説メモを書く。★⑥問題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「挙頭望山月」と、李白は山の上に昇る月を見上げ、「低頭思故郷」と、今度はうつむいて故郷を思い出している<u>様子</u>が読み取れる。うつむいているところから、寂しく落ちこんでる<u>心情</u>が想像できる。 ・「挙頭望山月」と、「低頭思故郷」は<u>対句</u>になっている。顔を「上げた」後に顔を「下げて」うつむく作者の姿が対比して書かれ、とても寂しそうに感じられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・観点は、風景・心情・構成・展開・表現の工夫・作者の6つ ・風景については色彩や音など、具体的な描写に注目できるようなキーワードを提示する ・観点の中から最低限3つを取り入れさせる。 <p>・メモはドキュメントに残しても、ワークシートに書いてもいいと伝える。</p> <p>◎観点を明確にして文章を比較するなどし、文章の構成や論理の展開、表現の効果について考えようとしている。 …思考・判断・表現（観察、解説メモ）</p> <p>○漢詩のどこがいいと感じるか、漢詩に線を引かせ、そこからどのような心情が伝わるか説明するよう促す。</p>
自覚化 5	<p>6 メモが作成できた生徒から、授業者にチェックをもらい、解説作成に入る。</p> <p>7 どの漢詩を選んだのかアンケートをとり、進捗状況を同じ漢詩を選んだペアで確認し、次の時間の目標をお互いに伝える。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>詩を選んで、メモの「風景」と「心情」の内容を書くことができた。でも、「表現」の内容によく分からないところがあるので、次の時間までに調べてから解説文を書きたい。</p> </div>

（5）板書計画

振り返り	… …	○ 観点候補			○ 漢詩候補			<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">課題</div> 自分の「漢詩の風景」が 伝わる解説文を書こう。
------	--------	-----------	--	--	-----------	--	--	---

3年3組 国語科 学習指導案

令和6年12月9日（月）第6限

場 所 3年3組教室

指導者 安原 広樹

1 単元名 二十歳の自分への十五の手紙～私たちはどう生きるか～

2 単元の目標

- (1) 文章の内容を理解したり論説文として表現したりするために必要な抽象的な概念を表す語句の文脈上の意味を理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。
(知識及び技能) (1) イ
- (2) 文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会について自分の考えをもつことができる。
(思考力、判断力、表現力等) C (1) エ
- (3) 言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。
(学びに向かう力、人間性等)

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・ 文章の内容を理解したり論説文として表現したりするために必要な抽象的な概念を表す語句の文脈上の意味を理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。(1) イ	・ 文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会について自分の考えをもっている。C (1) エ	・ 学習の見通しをもって、粘り強く考えを広げたり深めたりして、手紙を書こうとしている。

4 指導にあたって

(1) 教材観

本教材は、1年時の『『不便』の価値を見つめ直す』、2年時の「君は『最後の晩餐』を知っているか」の既習を踏まえて、価値の創造について思考を深める上での集大成の位置づけとなる。「自分とは何か」「自立とは何か」「責任とは何か」と筆者が次々に投げかける問いや言葉に従って、自らの在り方、社会の在り方について、考えていく文章である。高校受験や卒業後の自分について、具体的に考えていく時期の生徒にとって、筆者の指摘に共感を覚えたり、時には違和感や反発を覚えたりしながらも自分自身と向き合うことを通して、自分の考えを広げ、深めることに適している。また、言葉で言葉の概念を規定し、具体的な事例を示さずに展開する文章表現や警句の引用など、難解だと感じる生徒も少なくないだろうが、これから次の社会へ飛び出そうとしている生徒にとってこのような歯ごたえのある文章を読むことを通して、自らの人生や社会の在り方について考えるきっかけとなることを期待したい。

(2) 生徒観

以下は、7月に行った授業アンケートの結果である。

項目	肯定的評価 (%)
①国語は好きですか。	88.3
②自分に論理的思考力は身についていると思いますか。	48.0
③自分に批判的思考力は身についていると思いますか。	37.3

国語の授業全般において、落ち着いた授業態度である。自主的な発言を積極的に行う生徒も一部いるが、その発言が的を得ていなかったり、思考の浅い発言にとどまっていたりする。「読むこと」においては、批判的に思考しようとする意識が弱い。3年時の「作られた『物語』を超えて」の学習では、抽象的な概念を表す語句について文脈上の意味を理解することに課題が見られたり、「人工知能との未来」「人間と人工知能と創造性」の学習では、自ら観点を立てて二つの文章、そして自分の考えと比較することに課題が見られたりした。一方、自分自身について文章で表現することに抵抗感を抱かない生徒が多い。

(3) 指導観

単元における主たる言語活動として、「二十歳の自分宛てに、『誰かの代わりに』という生き方に対して、私はどう生きるかについて現在の考えを手紙に執筆する」を設定する。各学習活動のねらいが生徒に焦点化できるよう、生徒に相手意識と目的意識を明確にもたせながら、必要感をもたせて、学習へのモチベーションを保ちながら学習に臨ませたい。そして、生徒が深い学びへと到達することをねらいとした、生徒が主役となり主体的に取り組む姿を追求するために、生徒が選択する場を多く設けていきたい。そうすることで、研究主題の「自ら考える」生徒の育成の土台ができると考える。その際、その選択の数々が生徒の国語科としての資質・能力の育成に効果的に繋がるものとなるよう留意したい。また、必要な知識は理解・習得させながら、自分の生き方について言葉にこだわって向き合わせることで、「豊かに表現する」生徒の育成に繋げることができると考える。手紙の執筆に向けては、「根拠—解釈—考え」の筋道を明確にさせることで、国語科としての指導の力点も押さえたい。以上の指導を踏まえつつ、単元の最後には目標の達成度を振り返らせることで、学習を経て身につけた力をメタ認知させたい。その上で、実生活で生かしたいと考える主体性を養いたい。

5 単元の指導・評価計画（総時数4時間）（○…「評定に用いる評価」、●…「学習改善につなげる評価」）

時	主な学習活動	知	思	態	評価規準
1	説明的文章に関する既習事項を確認し、文章を通読する。 目標・言語活動を把握し、学習の見通しをもつ。 「自立」「責任」という語句の文脈上の意味を理解する。	○			・ 文章の内容を理解したり論説文として表現したりするために必要な抽象的な概念を表す語句の文脈上の意味を理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。（観察、ワークシート）
2・3	筆者が『誰かの代わりに』という意識」とはどのような意識で、なぜ大切だと考えるのか理解する。 「筆者のように、人と支え合う中に生きる意味を見いだす生き方」と「筆者と異なり、自分が何を成し遂げられるかに生きる意味を見いだす生き方」のどちらかを選び、理由とともに、二十歳の自分に宛てた手紙として執筆する。		○	○	・ 文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会について自分の考えをもっている。（観察、Documents、ワークシート） ・ 学習の見通しをもって、粘り強く考えを広げたり深めたりして、手紙を書こうとしている。（観察、Documents、Spread Sheets）
4	二十歳の自分に宛てた手紙の相互評価を行う。学習全体を振り返る。				

6 本時の学習（2／4）

(1) 小单元名 二十歳の自分への十五の手紙～私たちはどう生きるか～

(2) ねらい

「誰かの代わりに」を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会について自分の考えをもっている。
(思考力・判断力・表現力等)

※目標に向けて指導は行うが、「評定に用いる評価」「学習改善につなげる評価」は行わない。

(3) 思考を深める授業展開の工夫

第1時で生徒にFig Jam上に挙げさせた「筆者の考えに対して疑問があるところ」・「筆者の考えに対して反論があるところ」を視覚化することで、考えを広げたり深めたりするための交流相手を選択できるようにさせたい。言語活動である手紙を書く際には筆者の中心的な意見に対して自分の立場を選択させたり、キーワードとなる抽象的な語句を用いることを条件にしたりすることで、身に付けさせたい資質・能力の育成に繋げたい。

(4) 活用する既習事項

「不便」の価値を見つめ直す、君は「最後の晚餐」を知っているか、
作られた「物語」を超えて、人工知能との未来、人間と人工知能と創造性

(5) 準備

Chromebook、大型TV、Fig Jam データ、Documents データ、Spread Sheets データ

(6) 指導過程

時間	学 習 活 動	指導上の留意点（・）と評価（◎） 評価に対する支援（○）
導入 3	1 「言の葉タイム」を行い、心に残った言葉を交流する。	・担当生徒の紹介に対して教師が価値付けを行うことで、生徒が言葉の解釈を広げたり深めたりできるようにする。 ・大型TVを利用して学習計画中の本時の位置づけを確認することで、効率よく学習の見通しをもてるようにする。
1	2 前時の学習を振り返り、学習計画の中の本時の意味を理解する。 ・相手意識と目的意識を思い出せた。	
1	3 本時の課題を理解する。	
筆者の提言を踏まえて、私はどう生きるか		
30	4 手紙を執筆するというゴールに向かうための考える方法を①・②から選択し、読みを深める。 ★②時間④学習形態⑥問題 ①前時の自分と級友の気づき「筆者の考えに対して疑問があるところ」・「筆者の考えに対して反論があるところ」を比較し、交流をする。 ②筆者が『誰かの代わりに』という意識とはどのような意識で、なぜ大切だと考えるのか理解するために自分で考えたり級友と交流をしたりする。 ・同じ疑問をもった級友と交流しよう。 ・まずは自分で再度通読してみよう。	・ゴールに向かう方法を、提示した二つから生徒に選択させることで、主体的な学びの場を保障する。その他の方法を思いつく生徒には、吟味をした上で、その方法での学びを認めることで、個別最適な学びの場を保障する。 ・誰が①・②のどの方法を選択しているかを Fig Jam への入力を通して視覚化することで、交流の効率化を図る。 ・30分間の学び方（時間の内訳、形態）を生徒一人一人に選択させることで、個別最適な学びの場を保障する。 ・教師が机間巡視をしたり、classroom 上で確認したりと生徒の学びの進捗状況を見取ることで、適切に必要な生徒への指導を行うことができるようにする。
深化 4	5 現時点で、筆者の提言する生き方に対して自分がどう捉えているか立場（賛成・肯定・中立・否定・反対）を明確にし、Fig Jam に指定された色の付箋を用いて選択した理由を入力する。	・この時点で自分の考えを整理させることで、学びの自己調整を図ることができるようにする。 ・付箋を色分けさせることで、交流の効率化を図る。 ・必要に応じて、他の生徒と解釈の比較をさせることで、自分の考えを深めることができるようにする。必要なければ自分で考えを深める時間とする。
6	6 同じ立場を選んだ級友を中心にその理由について交流する。 ★③方法④学習形態 ・同じ立場でも解釈が異なって興味深い。	
自覚化 2	7 ペアで本時の学習の進捗状況を交流する。 ・自分の立場を明確にできるほど筆者の考えを理解できていない。次回の授業までに再度この文章における「自立」・「責任」の意味の読みを深めておこう。	
3	8 振り返りをする。 ・私はよい選択をすることができなかった。なぜなら、課題が同じ級友と交流した方が考えが深まると考えたからだ。	・Spread Sheets に「学び方」という観点で毎時間の振り返りを入力させることで、単元を通した学びの深まりと学び方における選択の適切さをメタ認知できるようにする。

2年1組 社会科 学習指導案

令和6年12月6日（金）第6限

場 所 2年1組教室

指導者 升田 悠真

1 単元名 北海道地方 「雄大な自然とともに生きる人々の暮らし」

2 単元の目標

- (1) 北海道地方について、自然環境を中核とした考察の仕方をもとに地域的特色を理解することができる。 (知識及び技能)
- (2) 北海道地方の地域的特色を、自然環境を中核とした考察の仕方をもとに多面的・多角的に考察し、表現することができる。 (思考力、判断力、表現力等)
- (3) 北海道地方の地域的特色に対する関心を高め、それらを意欲的に追求しようとする。 (学びに向かう力、人間性等)

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
北海道地方について、自然環境を中核とした考察の仕方をもとに地域的特色を理解している。	・ 北海道地方の地域的特色を自然環境を中核とした考察をもとに多面的・多角的に考察し、表現している。	・ 北海道地方の地域的特色に対する関心を高め、それらを意識的に追求しようとしている。

4 指導にあたって

(1) 教材観

本単元は、第3章「日本の諸地域」の7節「北海道地方 「雄大な自然とともに生きる人々の暮らし」」の学習にあたる。北海道地方は亜寒帯であり、日本の大部分が属する温帯とは異なった特色ある事象が多く見られる。また、北海道地方は雪国であり、同じ雪国である石川県との生活や産業の共通点や相違点を考察することのできる教材である。

(2) 生徒観

本学級の生徒はすでに九州地方から東北地方について学習しており、それぞれの地域的特色ある自然環境が地域の人々の生活や産業と深いかかわりをもっていることを理解している。

授業では、積極的に挙手をして発言する生徒は少ないが、授業後に質問する生徒は多く意欲的に追求しようとする姿勢が見られる。

(3) 指導観

地理的分野「日本の諸地域」の学習を行う上で大切にしたいことは、中核となる特色ある事象とそれを取り巻く他の諸事象との多様な関係性を捉えさせることである。北海道では、自然環境を中核に自然に適応する人々の暮らしや産業について、他の事象やそこで生ずる課題と有機的に関連付けて多面的・多角的に考察できるようにしたい。そのために、複数の資料を用意し、生徒同士がかかわる場面を設定することで事象を読み解く過程で考察を深めていけるようにする。

また、積極的に挙手をして発言することが苦手な生徒が多いが、ICTを活用することで相互の意見交流も促していきたい。

5 単元の指導・評価計画（総時数5時間）（○…「評定に用いる評価」、●…「学習改善につなげる評価」）

時	主な学習活動	知	思	態	評価規準
1	北海道地方の自然環境を調べる。	●			北海道地方について、亜寒帯がつくりだす自然事象について理解している。（ワークシート）
2	北海道地方の気候に適応した人々の暮らしを石川県と比較して考える。		●		雪が人々の生活に与える影響を自然環境を中核とした考察をもとに多面的・多角的に考察し、表現している。（ワークシート）
3	北海道地方の盛んな産業と発展した理由について、歴史的視点を取り入れながら考える。		○		北海道地方で盛んな産業を自然環境を中核とした考察をもとに多面的・多角的に考察し、表現している。（ワークシート）
4	北海道地方の観光ツアーを企画する。			●	北海道地方の地域的特色に対する関心を高め、それらを意識的に追求しようとしている。（スライド）
5	北海道地方の観光ツアーを紹介する。	○		○	北海道地方について、自然環境を中核とした考察の仕方をもとに地域的特色を理解している。（発表、スライド） ○ 北海道地方の地域的特色に対する関心を高め、それらを意識的に追求しようとしている。（発表）

6 本時の学習（2／5）

（1）小単元名 自然の制約に適応する人々の暮らし

（2）ねらい

同じ雪国である北海道地方と石川県の人々の生活の違いを自然環境を中核とした考察をもとに多面的・多角的に考察し、表現することができる。（思考力・判断力・表現力等）

（3）思考を深める授業展開の工夫

北海道と石川県の人々の暮らしの違いを自然環境を中核に様々な事象を関連づけて、なぜそのような違いが生まれたのかを考えさせたい。

（4）活用する既習事項

中部地方 特色ある北陸の産業

（5）準備

プレゼンテーション、ワークシート、タブレット端末

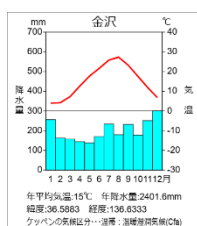
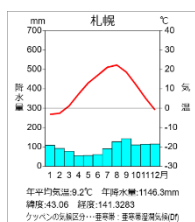
(6)指導過程

時間	学 習 活 動	指導上の留意点(・)と評価(◎) 評価に対する支援 C→B(○)
導入 3 2 10	1. 北海道の自然環境について知る。 ・北海道の雨温図を確認する。 ・石川県と北海道の積雪量と日数を確認する。 2. 本時の課題をつかむ。 <div>雪は人々の生活に、どんな影響を与えるのだろうか。</div>	・既習事項の確認を行い、生徒の思考を揃える。 ・冬の気温と降水量をおさえる。
10	3. 写真の撮影場所を予想する。 ・写真Aは北海道の写真だと思う。 ・写真Eの屋根は私の家の屋根と似ているから、石川県の写真だと思う。	・3人または4人の班にさせる。 ・北海道と石川県の写真を複数用意する。 ・写真の撮影場所を予想する際は、根拠も述べさせる。
5	4. 根拠資料を探す。 ・教科書に載っていると思う。 ・クロムブックで調べてみよう。 ★⑤道具	・どんな資料があれば、予想を証明できるか考えさせる。 ・探し出した資料は、Figmaに記録させる。 ・ワークシートにも必ず記録するように指示をする。
5 10 自覚化 5	5. 根拠資料を全体で共有する。 ・教科書p260に資料Aと同じ写真があったから、写真Aは北海道の写真だと思う。 ・写真Eの屋根には突起物があるけど、今教室の窓から見える民家の屋根にもついているから石川県の写真だと思う。 6. なぜ北海道と石川県で形に違いがあるのか、自然環境をもとに考える。 ・北海道は亜寒帯だから、石川県よりも寒いのが理由ではないだろうか。 ・共通している形もあるよね。 7. 課題に対するまとめを考える。 <div>雪の積雪量の違いによって、屋根の形や標識が環境に合わせた形で変化してくる。</div>	・発表の際はFigmaに記録させた資料を提示させる。 ・共通点と相違点に着目させる。 ・北海道と石川県の雨温図から自然環境を比較させる。
	8. 振り返りをする。	◎雪が人々の生活に与える影響を自然環境を中核とした考察をもとに多面的・多角的に考察し、表現している。 【思考・判断・表現】(ワークシート) ○なぜ、屋根の形の違いが生まれたのかを考えさせる。

(7) 板書計画

12/6

課題 〈雪は人々の生活に、どんな影響を与えるのだろうか〉



北海道



石川県



まとめ

雪の積雪量の違いによって、屋根の形や標識が環境に合わせた形で変化してくる。



3年2組 数学科 学習指導案（標準コース）

令和6年11月19日（火）第6限

場 所 3年2組教室

指導者 高名 智之

1 単元名 形に着目して図形の性質を調べよう [相似な図形]

2 単元の目標

- (1) 図形の相似についての基礎的な概念や原理・法則を理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりすることができる。(知識及び技能)
- (2) 図形の構成要素の関係に着目し、図形の性質や計量について論理的に考察し表現することができる。(思考力、判断力、表現力等)
- (3) 図形の相似について、数学的活動の楽しさや数学のよさを実感して粘り強く考え、数学を生活や学習に生かそうとする態度、問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとする態度を身に付けている。(学びに向かう力、人間性等)

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
①平面図形の相似の意味及び三角形の相似条件について理解している。 ②基本的な立体の相似の意味及び相似な図形の相似比と面積比や体積比との関係について理解している。	①三角形の相似条件などを基にして図形の基本的な性質を論理的に確かめることができる。 ②平行線と線分の比についての性質を見出し、それらを確かめることができる。 ③相似な図形の性質を具体的な場面で活用することができる。	①相似な図形の性質のよさを実感して粘り強く考え、図形の相似について学んだことを生活や学習に生かそうとしたり、相似な図形の性質を活用した問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとしたりしている。

4 指導にあたって

(1) 教材観

第2学年では、数学的な推論の過程に着目して、図形の合同に基づいて三角形や平行四辺形の基本的な性質を見だし、論理的に確かめ説明することを学習している。第3学年では、三角形の相似条件などを用いて図形の性質を論理的に確かめ、数学的な推論の必要性や意味及び方法の理解を深め、論理的に考察し表現する力を養うことができる教材である。そして、基本的な相似の意味を理解し、相似な図形の性質を用いて図形の計量ができるようにすることを目標とする。

(2) 生徒観

習熟度別少人数授業の標準コース14名である。学習意欲が高く、生徒同士の学び合いを積極的に行うこともできる。理解力が高い生徒が多くいるが、2年生での学習が定着しておらず、辺の対応など、基礎的な問題から躓いている生徒も数名いて、学力の差も大きい。

小学校でも拡大図と縮図を学習してきており、同じ形で大きさが違うことは理解できている。相似な図形の基礎的な証明は、8割の生徒が正しく書くことができている。2つの角がそれぞれ等しいことを見つけれられているので、本時の学習でも2つの三角形が相似な図形になることの根拠を示させる。

(3) 指導観

本単元で相似な図形の定義や性質の理解を深め、数量の計算や図形の性質の証明に活用できるようにしていく。2年時で学習した内容を活用することも多いので、平行線と角などの復習をしつつ学習を進めていく。

校舎の高さを求める際には、相似条件の1つである「2組の角がそれぞれ等しい」ことを利用し、相似比などを用いて立式することをおさえる。そして、高さを求める過程や必要な数値について説明ができ、自分の考えを伝えることを目標としたい。

5 単元の指導・評価計画（総時数26時間） ○「評価に用いる評価」 ●「学習改善につなげる評価」

時	主な学習活動	知	思	態	評価規準
1	タブレット上での2本の指の操作によって、図形がどのように拡大されているかを調べる。		●		図形をある点を中心に拡大する方法や拡大してできる図形の特徴を見だし、説明することができる。（観察、ノート）
2	平面図形の相似の意味と表し方を知り、その性質を確認する。 相似比の意味を知る。	●			平面図形の相似の意味と表し方やその性質を理解している。（観察、ノート）
3	ある図形と相似の位置にある図形をかく。	●			相似の位置にあることの意味を理解し、ある図形と相似の位置にある図形をかくことができる。（観察、ノート）
4	相似な図形の辺の長さを、対応する辺の比が等しいことや隣り合う辺の比が等しいことを使って求める。	●			相似な図形の辺の長さを、対応する辺の比や隣り合う辺の比が等しいことを使って求めることができる。（観察、ノート）
5	ある三角形と相似な三角形をかくためには、何がわかればよいかを考える。 三角形の相似条件を確認する。	●		●	三角形の相似条件を理解している。（観察、ノート） 三角形の相似条件について考えようとしている。（観察）
6	2つの三角形が相似かどうかを、三角形の相似条件を使って判断する。		●		三角形の相似条件を利用して、2つの三角形が相似かどうかを判断し表現することができる。（観察、ノート）
7	三角形の相似条件を利用して、図形の性質を証明する。		●		三角形の相似条件を利用して、図形の性質について考察し表現することができる。（観察、ノート）
8	相似を利用して、図形の性質を証明する。		●		相似を利用して、図形の性質について考察し表現することができる。（観察、ノート）
9	直接には測定できない距離や高さを、縮図を利用して求める。		○		相似な図形の性質を具体的な場面で活用し、距離や高さについて考察し表現することができる。（観察、ノート）
10	測定値の誤差の意味を知り、真の値の範囲を不等号を使って表したり、有効数字の意味を知り、測定値を $a \times 10$ の n 乗の形に表したりする。	●			有効数字の意味を理解し、測定値を $a \times 10$ の n 乗の形に表すことができる。（観察、ノート）
11	与えられた手順でノートの罫線を3等分し、その方法で3等分できるわけを考える。		●		相似な図形の性質を具体的な場面で活用し、等分の仕方について考察し表現することができる。（観察、ノート）
12	三角形と比の定理を利用して、線分の長さを求める。	●			三角形と比の定理を利用して、線分の長さを求めることができる。（観察、ノート）
13	三角形と比の定理の逆を利用して、2つの線分が平行かどうかを判断する。		●		三角形と比の定理の逆を利用して、2つの線分が平行かどうかを判断し表現することができる。（観察、ノート）

14	中点連結定理を利用して、線分の長さを求める。	●			中点連結定理を利用して、線分の長さを求めることができる。(観察、ノート)
15	四角形の各辺の中点を結んでできる四角形は、平行四辺形であることを証明する。		●	●	中点連結定理を利用して、図形の性質について考察し表現することができる。(観察、ノート) 平行線と比について学んだことを学習に生かそうとしている。(観察)
16	平行線と比の定理を利用して、線分の長さを求める。	●			平行線と比の定理を利用して、線分の長さを求めることができる。(観察、ノート)
17	平行線と比の定理を利用して、図形の性質を証明する。		●		平行線と比の定理を利用して、図形の性質について考察し表現することができる。(観察、ノート)
18	平行線と比の定理を利用して、線分の長さや角度の大きさを求める。		●		平行線と比の定理を利用して、線分の長さや角度の大きさの求め方を考察し表現することができる。(観察、ノート)
19	基本の問題に取り組む。	●			学習内容を適用して、問題を解決することができる。(観察、ノート)
20	相似な三角形について、相似比と面積比の関係を調べる。		●		相似な平面図形の相似比と面積比について考察し、関係を見いだし表現することができる。(観察、ノート)
21	相似な多角形や円について、相似比と面積比の関係を調べる。 相似な平面図形の相似比と面積比の関係を確認する。		●		相似な多角形の相似比と面積比を、多角形を三角形に分けて、対応する三角形の相似比と面積比を基にして考察し表現することができる。(観察、ノート)
22	相似な平面図形の相似比と面積の関係をj利用して、具体的な問題を解決する。		●		身の回りにあるものを図形とみなして、相似な平面図形の相似比と面積の関係をj利用して考察し表現することができる。(観察、ノート)
23	相似な立体の相似比と表面積の比や体積比の関係をj確認する。	●			立体の相似の意味及び相似な立体の相似比と表面積の比や体積比の関係をj理解している。(観察、ノート)
24	相似な立体の相似比と表面積の比や体積比の関係をj利用して、具体的な問題を解決する。		○	○	身の回りにあるものを立体とみなして、相似な立体の相似比と体積比の関係をj利用して考察し表現することができる。(観察、ノート) 相似な立体の相似比と体積比の関係をj活用した問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとしている。(観察)
25	相似比や体積比の関係をj利用して、いろいろな問題を解決する。		○	○	相似比や体積比の関係をj利用して考察し表現することができる。(観察、ノート)】 相似な立体の相似比と体積比の関係をj活用した問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとしている。(観察)
26	章の問題に取り組む。	○			学習内容を適用して、問題を解決することができる。(ノート)

6 本時の学習（9／26）

（1）小単元名 相似の利用

（2）ねらい

相似な図形の性質を具体的な場面で活用し、距離や高さについて考察し表現することができる。

（思考力・判断力・表現力等）

（3）教科の見方・考え方を踏まえた選択の場面の工夫

高さの計算の仕方を事前に学習する。その解き方を活かして、どの方法で求めるか、何を調べる必要があるか、どの道具を使えばよいかを自分たちで考えさせる。

（4）準備

ワークシート、タブレット端末、分度器、鏡、レーザーポインター、メジャー

（5）指導過程

時間	学 習 活 動	指導上の留意点(・)と評価(◎) 評価に対する支援 C→B(○)
導入 10	<p>1 前時の復習をし、課題をつかむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3つの求め方があったな。 ・どれを使うと調べやすいかな。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin: 10px 0;"> 相似を利用して校舎の高さを調べる方法とは </div> <p>2 全体で解き方を確認する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・$1.6:1=x:4$だから、解くと6.4m ・縮図をかって高さを調べると約5m。1.5mを足して、6, 5mになる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・前時で3問の解き方を考えさせ、本時で解き方を復習させる。
深化 30	<p>3 3つの考え方を利用し、実際に校舎の高さを求め、全体で発表する。★③方法、⑤道具</p> <ul style="list-style-type: none"> ・影を利用するとき、自分の身長と影の長さ、校舎の影の長さを調べる必要がある。 ・校舎から離れる距離、校舎を見上げる角度を調べる必要がある。 ・鏡と校舎との距離、自分と鏡との距離、自分の身長を調べる必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・グループで、どの長さを図ればいいのか、どの道具を使えばいいかなどを確認させる。 ・図や表を使って説明させる。 <p>◎相似な図形の性質を具体的な場面で活用し、距離や高さについて考察し表現することができる。</p> <p>・・・思考・判断・表現（ワークシート・発表）</p> <p>○調べる必要がある長さを確認し、立式させる。</p>
自覚化 5	<p>4 まとめをする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> 2組の角がそれぞれ等しい三角形を作ること、相似比や縮図を利用して高さを調べることができる。 </div>	
5	<p>5 適用問題に取り組む。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・別の解き方で計算させる。

(7) 板書計画

課題				＜相似を利用して校舎の高さを調べる方法とは＞	
影を利用する		相似な三角形をかいて求める		レーザーポインターの反射を利用する	
				まとめ	
2組の角がそれぞれ等しい三角形を作ること、相似比や縮図を利用して高さを調べるができる。					

前時で扱う問題

- ①高さ1.6mの人の影が1mの時、木の影の長さが4mだった。木の高さを求めなさい。
- ②校舎から8.6m離れた地点Pから、木の先端Aを見上げたら、 30° 上に見えました。また、目の高さは1.6mです。縮図を書いて、高さを求めなさい。
- ③高さ1.6mの人が床に置いてある鏡に向けて、頭の上からレーザーポインターを当てた。すると、反射して木の頂点に当たった。人から鏡までの距離が1m、鏡から木の距離が4mの時、木の高さを求めなさい。



1 年 2 組理科学習指導案

令和 6 年 1 0 月 7 日（月）第 6 限

場 所 第 2 理科教室

指導者 政近 顕純

1. 単元名 いろいろな気体とその性質

2. 単元の目標

- (1) 気体の発生や捕集等の実験を通して気体の種類による特性を理解するとともに、気体の発生法や捕集法、気体の性質を調べる方法などの技能を身に付けることができる。

(知識及び技能)

- (2) 気体の発生とその性質について問題を見だし、見通しをもって観察・実験などを行い、その結果を分析して解釈し、気体の性質を見いだして表現することができる。

(思考力、判断力、表現力等)

- (3) 気体の発生とその性質に係る事物・現象に進んで関わり科学的に探究しようとする態度をもち、科学的な根拠に基づいて意思決定をしようとする。

(学びに向かう力、人間性等)

3. 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・身のまわりの物質の性質や変化に着目しながら、気体の発生とその性質についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身につけている。	・気体の発生とその性質について、問題を見だし見通しをもって観察、実験などを行い、物質の性質やその変化における規則性を見いだして表現しているなど、科学的に探究している。	・気体の発生とその性質に関する事物・現象に進んで関わり、見通しをもったりふり返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。

4. 指導にあたって

(1) 教材観

小学校では、第 6 学年で、植物体が燃えるときには、空気中の酸素が使われて二酸化炭素ができることを学習している。ここでは、気体の発生や捕集などの実験を通して、気体の種類による特性を理解するとともに、気体の発生法や捕集法、気体の性質を調べる方法などの技能を身に付けることができる教材である。幾つかの気体を発生させて捕集する実験を行い、それぞれの気体の特性を調べる実験を行う。その際、水への溶けやすさ、空気に対する密度の大小など気体によって特性があり、それに応じた捕集法があることを理解することができる。また、代表的な例を取り上げて、異なる方法を用いても同一の気体を得られることについて学ぶことができ、観察、実験などを行いその結果を分析して解釈し、気体の性質を見いだして表現する力を養うことができる教材である。

(2) 生徒観

4 月の学力調査の正答率は 70.2%（物質・エネルギー分野の正答率が 65.6%、生命・地学分野の正答率が 72.9%）であった。前期の授業アンケートでは、理科が好きと肯定的に回答している生徒が 82.1%であった。1 学期の生命分野では意欲的に観察に取組み、生物の分類にも積極的であった。また、物質分野では実験に必要な技能を身に付けるため班で協力する姿が見られたり、実験にも積極的に取り組む姿が見られたりした。このことから活動に対して意欲的な生徒たちであることが分かる。実験などに対し意欲的に活動できると感じる一方で、個人で考察を書く場面では何を書いて良い分からず何もできなかったり、書いていないために考えを伝える場面でもできなかったりする生徒も見られる。

(3) 指導観

身のまわりには、いろいろな性質を持つ気体があることを学び、身近な物質からも気体が発生することに気づくことで興味・関心を高めたい。そして、気体の性質に合わせた捕集法を理解させると共に、気体の持つ性質から気体を特定できる力を身に付けさせたい。また、気体を特定するための性質を知るために闇雲に実験を行うのではなく、予想される気体に合わせて効率の良い手順を考えたり、予想とは異なる結果が得られた場合はどのような実験操作を行うのかを考えたりする力を付けさせたい。そのために実験の手順について個人で考えるだけでなく班などで話し合う活動を取り入れることで一人一人が実験について考える時間を設けて実験に取り組ませたい。また、考察の書き方を例にして自分の考えを伝える力を付けさせたい。

5. 単元の指導・評価計画（総時数5時間）（○…「評定に用いる評価」、●…「学習改善につなげる評価」）

時	主な学習活動	知	思	態	評価規準
1	気体はどのようにすれば区別できるかを見いだす。	●			気体の捕集法について理解している。 (発言, ノート)
2	酸素, 二酸化炭素の性質を説明する。		●		実験結果から, 異なる方法で発生させた気体の性質が, 同じ性質か異なる性質かを判断している。 (ノート, ワークシート)
3	アンモニアの性質について理解する。	○			アンモニアの噴水実験の結果や原理を, アンモニアの性質と関連づけて説明している。 (発言, ノート)
4	身のまわりのものから発生した気体は何であるかを調べる方法を考える。		○		習得した知識・技能を活用して, 未知の気体を区別する実験を計画し, 課題を解決しようとしている。 (ワークシート, 発言)
5	身のまわりのものから発生した気体も, 気体の性質を調べることで, 発生した気体を区別できることを理解する。			○	未知の気体を調べる実験を正しく安全に行い, 実験結果からその気体の正体を判断している。 (発言, ワークシート)

6. 本時の学習（4／5）

(1) 小単元名 身のまわりのものから発生した気体の区別

(2) ねらい

習得した知識・技能を活用して、未知の気体を区別する実験を計画し、課題を解決しようとしている。(思考力, 判断力, 表現力等)

(3) 教科の見方・考え方を踏まえた選択の場面の工夫

発生している気体は何なのかの予想に対して、その性質を調べるためにはどのような実験操作が適当なのかを選択する。また、予想される結果が得られなかったとき次にどのようなことに取り組むのかを選択する。

(4) 準備

A: 発泡入浴剤+お湯,
B: オキシドール+ピーマン,
C: ワイドハイター+お湯
D: ベーキングパウダー+お酢
E: ポット洗剤+お湯
クロムブック, ワークシート

(5) 指導過程

時間	学習活動	指導上の留意点（・）と評価（◎） 評価に対する支援（○）
導入 10	1 5種類の身近な物質から気体が発生する様子を見る。 ・Aはいっぱい発生しているな。 ・BとDは細かい泡がいっぱいだな。	・生活の中で気体が発生していると思われる場面を聞く。(料理やお風呂、洗濯や掃除)
2	2 本時の課題をつかむ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">身近な物質から発生させた気体は何か</div>	
3	3 それぞれどのような物質が含まれているのか確認する。 ・それぞれ何が含まれるのかな。 ・炭酸水素 Na はなんだろう。	・発生していそうな気体は何か問いかける。(発生していなさそう) ・発生している気体は安全性を最優先していることを伝える。 ・成分表を提示する。
5	4 自分で調べてみたい物質を選び、発生する気体を予想する。 ・Aは二酸化炭素かな。 ・Bは酸素かな。 ・Cは窒素かな。 ・Dは水素かな。 ・Eは何だろう。	・班は関係なく一人一人が選ぶことを伝える。 ・自分が選んだ物質と発生すると予想する気体を黒板の表に自分のネームを貼るよう伝える。 ・発生すると予想した自分なりの考えを聞く。 ・成分表示を参考にして予想することを伝える。 ・個人で予想が難しい人はヒントを見てもよいことを伝える。
深化 23	5 実験計画を書く。 ・水上置換法で集めよう。 ・気体を集める試験管の本数は3本かな。 ・集める試験管には水を満たしておく必要があったな。 ・予想は二酸化炭素だから、石灰水かな。 ・酸素だと火のついた線香かな。 ・水素は火のついたマッチだな。 ★③方法⑤教材	・班が違っても同じ気体を予想する人と話し合っても良いことを伝える。 ・予想する気体であることを確かめるためにはどのような操作をすればよいか話すよう伝える。 ・予想と違う結果が得られた場合はどうするか聞く。 ◎習得した知識・技能を活用して、未知の気体を区別する実験を計画し、課題を解決しようとしている。…思考・判断・表現（ワークシート、発言） ○これまでに学んださまざまな気体の性質や捕集法を思い出させる。 ・速く計画が立てられた生徒は2つめの計画も立ててみるよう伝える。
自覚化 5	6 振り返る。 ・同じ気体を予想しているな。 ・他の気体を予想している人はどのような手順かな。 ・気体に合わせた計画になったな。	・実験計画を確認し合い、実験の手順について振り返らせる。 ・班で「選んだ物質」「発生すると予想した気体」「実験操作」「予想と違った場合について」を話すように伝える。
2	7 次時の確認をする。	

(6) 板書計画

課題 <身近な物質から発生させた気体は何か>

A 成分表

B 成分表

C 成分表

D 成分表

E 成分表

酸素

二酸化炭素

空素

水素

アンモニア

塩素

塩化水素

メタン

硫化水素

Section 1	酸素	二酸化炭素	水素	窒素
A 発泡入浴剤 + お湯				
B オキシドール + ピーマン				
C ワイドハイター + お湯				
D ベーキングパウダー + お酢				
E ポット洗浄剤 + お湯				

ヒント



1 年 1 組 保健体育科 学習指導案

令和 6 年 9 月 1 2 日 (木) 第 6 限

場 所 1 年 1 組教室

指導者 石垣 孝明

1 単元名 心身の機能の発達と心の健康 (心身機能の発達)

2 単元の目標

- (1) 身体には、多くの器官が発育し、それに伴い、様々な機能が発達する時期があること。また、発育・発達の時期やその程度には、個人差があることを理解できるようにする。
思春期には、内分泌の働きによって生殖に関わる機能が成熟すること。また、成熟に伴う変化に対応した適切な行動が必要となることを理解できるようにする。 (知識及び技能)
- (2) 心身の機能の発達に関わる事象や情報から課題を発見し、疾病等のリスクを軽減したり、生活の質を高めたりすることなどに関連付けて、解決方法を考え、適切な方法を選択し、それらを伝え合うことができる。 (思考力、判断力、表現力)
- (3) 心身の機能の発達について、自他の健康の保持増進や回復についての学習に自主的に取り組もうとしている。 (学びに向かう力、人間性等)

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・身体が発育・発達には、骨や筋肉、肺や心臓などの器官が急速に発育し、呼吸器系、循環器系などの機能が発達する時期があること、また、その時期や程度には、人によって違いがあることを理解している。 ・思春期には、下垂体から分泌される性腺刺激ホルモンの働きにより生殖器の発育とともに生殖機能が発達し、男子では射精、女子では月経が見られ、妊娠が可能となることを理解している。 ・身体的な成熟に伴う性的な発達に対応し、個人差はあるものの、性衝動が生じたり、異性への関心などが高まったりすることなどから、異性の尊重、性情報への対処など性に関する適切な態度や行動の選択が必要となることを理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・心身の機能の発達と心の健康における事柄や情報などについて、保健に関わる原則や概念を基に整理したり、個人生活と関連付けたりして、自他の課題を発見している。 ・心身の機能の発達について、習得した知識を自他の生活に適用したり、課題解決に役立てたりして、発達の状況に応じた健康を保持増進する方法を見いだしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・心身の機能の発達について、自他の健康の保持増進や回復についての学習に自主的に取り組もうとしている。

4 指導にあたって

(1) 教材観

本単元では、健康の保持増進を図るための基礎として、心身の機能は生活経験などの影響を受けながら年齢とともに発達することについて理解できるようにする。特に思春期は、呼吸器、循環器、生殖器が著しく発育発達する時期であることを理解できるようにしなければならない。一方で、思春期の中学生において生殖機能の発育発達については、発達段階に留意しながら指導をしていく必要がある。また、これらの発達の仕方とともに、心の健康を保持増進する方法についても理解できるようにするとともに、ストレスへの対処方法を考えることができる教材である。

(2) 生徒観

本学級の生徒は、保健体育の授業に意欲的に取り組んでいる。1学期のアンケートで「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる。」については、肯定的な回答が92%だった。一方で自分の考えを持つことができない生徒や調べ学習をする際に支援が必要な生徒もいる。また、本単元に関連して小学校では、年齢とともに発育・発達することや個人差があることや思春期での体つきの変化について学習をしている。

(3) 指導観

本単元では、思春期である中学生は心身の発達に重要な期間であることを理解できるようにしたい。一方で、その程度や時期には個人差があることを確認し、生徒自身が自分の心身の発達に不安が生じないように留意したい。

本時は単元最初の授業であり、生徒が体の発育や発達の仕方に興味を持てるように、導入において小学校の復習や生活経験を取り上げるなどの工夫をしたい。また、各器官の発育・発達の仕方を生徒自身が調べる時間をとりたい。

5 単元の指導・評価計画（総時数5時間）（○…「評定に用いる評価」●…「学習改善につなげる評価」）

時	主な学習活動	知	思	態	評価規準
1	体の発育・発達の仕方について考える	●			・体の各器官の発育・発達の仕方は器官ごとに違うが、発育急進期がある。また、発育・発達の程度には個人差があることを理解している。（ワークシート）
2	呼吸器・循環器をより効果的な発育・発達方法について考える。		○		・呼吸器・循環器の効果的な発育、発達をさせるための具体的な行動方法を見出している。（ワークシート）
3 ・ 4	生殖機能の成熟について専門的な言葉をまとめる。	●			・思春期には、内分泌の働きによって生殖に関わる機能が成熟することを理解している。（ワークシート）
5	異性の尊重と性情報への対処についてこれまでの実体験も含めて考える。			●	・異性の尊重と性情報への対処の仕方について自主的に取り組もうとしている。（活動の様子）

6 本時の学習（1／5）

(1) 小単元名 体の発育・発達

(2) ねらい

体の各器官の発育・発達の仕方は器官ごとに違うが、発育急進期があり、発育・発達の程度には個人差があることを理解できる。（知識及び技能）

(3) 教科の見方・考え方を生かした選択の場面の工夫

発育・発達の仕方を資料やタブレットなど学習道具を選択し、調べる。

(4) 活用する既習事項

体の発育・発達（小学校4年）

(5) 準備

タブレット、ワークシート

(6) 指導過程

時間	学 習 活 動	指導上の留意点（・）と評価（◎） 評価に対する支援（○）
導入 6	1 乳幼児の身長の変化について考える。 ・ 0歳から1歳までに10cmくらい伸びると思う。	・ 身長は骨の発育によるものだと理解をさせる。 ・ 身長の伸び方に興味を持たせる。
2	2 骨と他の器官の発育について考える。 ・ 脳は一気に大きくならないのではないか。	・ 各器官が同じように変化するかどうかについて疑問を持たせる。
2	3 本時の課題をつかむ。	
	体の各器官の発育・発達の仕方は、どのようなものか	
2	4 体の各器官について確認する。	
3	5 発育・発達の意味について確認する。	
5	6 課題について（身長の変化）予想する。 ・ 中学生の頃に身長が一気に伸びそう ・ 女子は先に成長しそう	・ 20歳までに男性は170cm、女性は160cmに成長すると仮定し、身長の変化の経過を予想させる。
5	7 予想を共有する。 ・ 成長期という言葉聞いたことがあるので、中学生の頃に一気に伸びると思う。	・ 様々な予想を共有し、体の発育・発達に興味を持つようにする。
深化 15	8 体の発育・発達の仕方について調べ、共有する。★③方法 ⑤道具 ・ 2回急激に発育しているものがある。 ・ 脳の発育ははやい。 ・ 発育・発達の仕方は、みんな同じではない。	・ 資料やタブレットなど自分に合った道具を使用して調べる ・ ジャムボードもしくはオクリンクに記入させていく。 ・ 思春期に発育・発達する器官に注目する。 ・ 発育急進期について確認する。 ・ スキャモンの発育曲線について確認をする。 ・ 個人差について確認する。
5	9 まとめ、振り返りをする。	
	体の各器官の発育・発達の仕方は器官ごとに違う。ただし、各器官に発育急進期がある。また、発育・発達の程度には個人差がある。	
自覚化 5	今日の分かったことを書く。	◎体の各器官の発育・発達の仕方は器官ごとに違うが、発育急進期がある。また、発育・発達の程度には個人差があることを理解している。…知識・技能（ワークシート） ○調べた内容を今一度確認させたり、スキャモンのグラフを見せる。

(7) 板書計画

課題 体の各器官の発育・発達の様子は、どのようなものか

発育：大きさや重さが増すこと

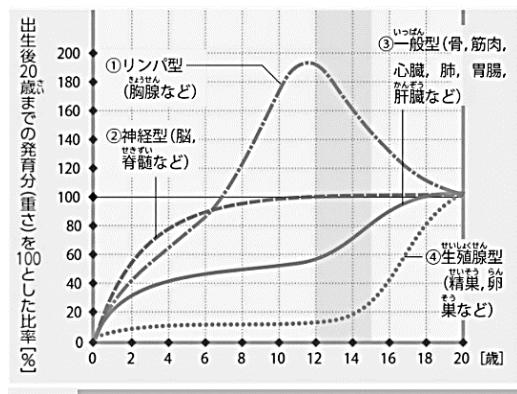
発達：働きが高まること

発育急進期：急速に発育する時期

<予想>

成長期に発育発達しそう

まとめ



体の各器官の発育・発達の様子は器官ごとに違う。ただし、各器官に発育急進期がある。また、発育・発達には個人差がある。

3年2組 英語科（標準コース） 学習指導案

令和6年10月21日（月）第6限

場 所 英語科教室

指導者 上谷 由喜

1 題材名 Learning CIVICS in English

2 題材の目標

- (1) 選挙と投票について考えを深めるために、投票率に関する資料から読み取ったことを伝え合ったり、身近な話題について意見を発表したりすることができる。（思考力、判断力、表現力等）
- (2) 自分たちが回答した家庭学習に関するアンケートの結果をもとに、その実態と課題を把握し、協働学習を通して自己の考えや理解を深め、自分がすべきことを見出そうとする。
(学びに向かう力、人間性等)

3 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	<ul style="list-style-type: none"> 資料から読み取ったことをもとに、社会人としてすべきことについて考え、自分の考えや意見を表現している。 	<ul style="list-style-type: none"> 身近な話題について、様々な考えに触れながら、自分の考えや意見を皆にわかりやすく伝えるために、聞き手を意識し工夫しながら発表しようとしている。

4 指導にあたって

(1) 教材観

本教材は、投票と選挙について考えを深めるために、外国と日本の投票率に関する資料を扱っている。資料から読み取ったことを伝え合ったり、身近な話題について自分の考えや意見を述べたりすることができる教材である。外国と日本の投票率を比較し、どのようにして自分たちが社会参画していくのかを考えることで、その意味を自分なりに捉え、仲間との交流を通して、投票や選挙に対する意識を深めることができる。

発展的な課題を扱うことで、伝えたい情報を整理しながら、自分の考えを工夫して発表することができる。

(2) 生徒観

これまでの学習において、思考ツールや ICT の活用、協働学習を行ってきた。目的に合った思考ツールや学習形態を自ら選択することで、思考を深めたり、豊かな表現力を身につけたりしようと工夫する様子が見られた。また、間違いを恐れず、安心して自分の考えや意見を発表する雰囲気を醸成することができた。

本教材では資料の読み取りを必要としている。これまでの、自分の体験や経験をもとに意見を述べていたが、本教材においては、真のデータを用いているため、根拠や理由を明確にし、客観性のある意見を述べる必要がある。説得力のある意見の述べ方や伝え方を工夫することで、聞き手を意識した話し方を身につけることができると思われる。

(3) 指導観

これまでの学習を通して、自分の意見を述べるための「構成」について理解はしている。「内容」については、自分の考えに、自分の体験や経験を具体例に挙げながら述べさせてきた。しかし、自分の体験や経験といった主観にとらわれた根拠だけでは、相手を納得させることはできないこともある。より説得力のある意見にするためには、事実やデータに基づいた根拠や理由を客観的に述べていくことも大切である。また、論理的思考だけでなく、批判的思考も物事の本質に迫るために必要な思考である。CLIL 学習を通して、これらのことを体験的に学ばせたい。

5 題材の指導・評価計画（総時数3時間）（○…「評定に用いる評価」、●…「学習改善につなげる評価」）

時	主な学習活動	知	思	態	評価規準
1	Task 外国と日本の投票率に関する資料から読み取ったことを伝え合ったり、身近な話題について公約を考えて発表したりする。		●		資料から読み取ったことや身近な話題についての考えた公約を、簡単な英語で伝えている。（発表）
2	Challenge 「宿題をなくす」という校長先生の提案について、自分の意見に理由を加えて発表する。		●		聞き手にわかりやすく伝えるために、説得力のある意見の述べ方や表現法を工夫しながら伝えている。（観察）
3	Challenge 「宿題をなくす」という校長先生の提案について、自分の意見に理由を加えて発表する。		○	○	聞き手にわかりやすく伝えるために、説得力のある意見の述べ方や表現法を工夫しながら発表している。（VTR） 聞き手にわかりやすく伝えるために、説得力のある意見の述べ方や表現法を工夫しながら発表しようとしている。（観察、VTR）

6 本時の学習（2／3）

（1）小題材名 Challenge

（2）ねらい

聞き手にわかりやすく伝えるために、説得力のある意見の述べ方や表現法を工夫しながら伝えている。
（思考力、判断力、表現力等）

（3）教科の見方・考え方を踏まえた選択の場面の工夫

コミュニケーションを行う目的や場面、状況等を明確にし、情報を整理しながら考えを形成し、聞き手に配慮しながら表現し伝え合う。発表者は聞き手を意識することでより良い意見や英語の運用を目指すことができる。

（4）準備

ワークシート（思考ツール）、スライド（アンケート調査の結果）、校長先生（架空）のVTR表現集（VTR、スライド）、黒板添付用の資料（アンケート調査の結果）、黒板貼付用の表現集2枚



(5) 指導過程

時間	学 習 活 動	指導上の留意点（・）と評価（◎） 評価に対する支援（○）
導入 2	1 前時の学習内容の確認をする。 ・ I will ask our school to make a cafeteria.	・ 自分はどんな提案をしたか、他にどんな提案があったかを確認させることで本時の場面につなげる。
3	2 本時の課題をつかむ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">校長先生の提案に賛成か？反対か？</div>	・ 新任の校長先生（架空）の提案を見る。
10	3 自分の考えをもつ。 ・ <agree> I can study more than now. ・ <disagree> I will not have enough time to study what I need.	・ 資料をもとに、根拠と理由を考えさせる。 ・ 考える手立てとして、思考ツールを与える。 ・ 賛否、どちらの理由も考えさせる。
深化 30	4 意見交流をおこなう。★①目標④学習形態 ・ I agree with this opinion. I have two reasons. First, I can study every day. Second, I can learn what I need. ・ I disagree with this opinion. I have two reasons. First, I don't have enough time to do my homework. I have a lot of things to do in my house. Second, I want to study what I want to.	・ 参考にしたい友達の意見や表現をメモさせる。 ・ 役割やペアを交替させながら、賛否どちらの意見も発表させる。 ・ 必要に応じて表現方法を助言する。 ・ ALT の VTR をヒントとして与える。 ◎聞き手にわかりやすく伝えるために、説得力のある意見の述べ方や表現法を工夫しながら伝えている。 ○説得力のある意見の述べ方や伝え方にどのような工夫が見られるのかを考えさせ、自分の意見の再構築につなげさせる。
自覚化 5	5 振り返りをする。	・ 本時のねらいについて振り返りをさせ、活動を通して気づいたことをシートに記入させる。

(6) 板書計画

課題 <校長先生の提案に賛成か？反対か？>			Mon, Oct 21 st
評価 規準	資料	内容	
Task	Graph 1～6 Useful Expressions	・ 情報量 ・ 意見と理由 の整合性	
		振り返り	

= 資料 4 =

学力向上フォーラム（10 月 4 日）



個別最適な学びと 協働的な学びの 一体的な充実に 向けて



かほく市立高松中学校

発表内容

- 1 本校の現在地
- 2 1学期の取組
- 3 成果と課題
- 4 今後の取組



かほく市立
高松中学校

発表内容

- 1 本校の現在地
- 2 1学期の取組
- 3 成果と課題
- 4 今後の取組



かほく市立
高松中学校

研究主題

自ら考え、豊かに表現する生徒の育成
～思考を深め、伝え合う力を高める
授業づくりを通して～

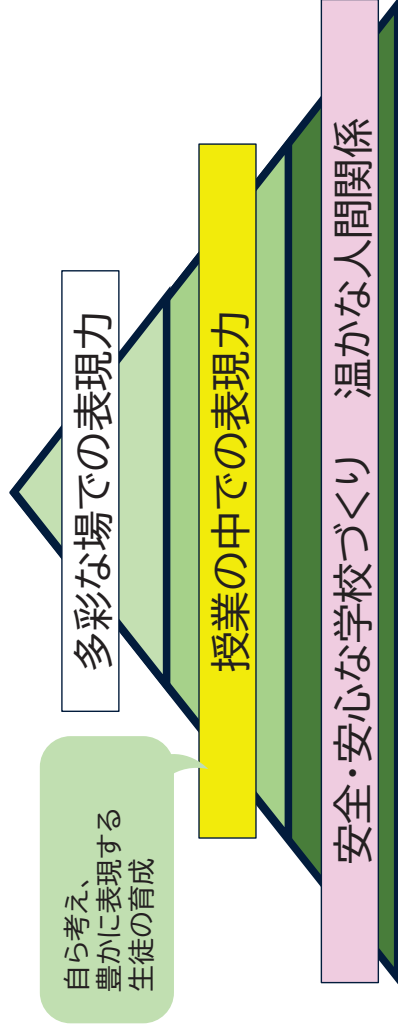


かほく市立
高松中学校

これまでの取組



かほく市立
高松中学校



本校の生徒の実態



かほく市立
高松中学校

- 素直、礼儀正しい、真面目
- 自分の考えを話す、自己表現する
- ◇ 見通しを持って取り組む力が弱い
- ◇ 考えを自分の言葉でまとめて書く力が弱い
- ◇ 根拠が不十分な表現が多く、深まりがない

本校の生徒につけたい力



かほく市立
高松中学校

学び方に関する本年度の目標



かほく市立
高松中学校

- 課題意識を持ち、自ら学習を調整しながら
粘り強く学習に取り組む力
- 相手意識を持ち、自らの考えを、根拠を
明確にしてわかりやすく表現し、伝える力

- ① 子供が学び方を選択し、自ら学びを調整
する力を育成する
- ② 「個別最適な学び」の視点で、ICTの効果
的活用を図る

発表内容



2 1学期の取組



- 1 本校の現在地
- 2 1学期の取組
- 3 成果と課題
- 4 今後の取組

- (1)提案授業 (4/25)
- (2)授業実践
- (3)研究推進委員会 (毎週)
- (4)校内研究会 (毎月)

(1)提案授業



研究主任による提案授業

【助言】 金沢教育事務所 指導課長
小橋 昌明 弥
本崎 弥 指導主事

【講話】 北陸学院大学
村井 万寿夫 教授

目的は資質・能力の育成であり、
その手段としての学び方の選択
があることの共通理解を図った



(2)1学期の実践



【共通実践】

指定授業において、選択する場面の設定

教科の資質・能力を育成するために

生徒が学び方等を選択する場面を設定する

(①目標 ②時間 ③方法 ④学習形態 ⑤道具(教材)⑥問題)

実践例① 【社会】



実践例② 【数学】



【育みたい資質・能力】

事象の特色や相互の関連を多面的・多角的に考察する力



【道具を選択】

自分の主張を補完するための資料を、教科書や資料集、Webなどから自由に探す



【育みたい資質・能力】

数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力



【方法と学習形態を選択】

数直線やトランプなどから、自分にとって「マイナスマイナス＝プラス」を説明するのに適した方法を選択する

実践例③ 【理科】



実践例④ 【英語】



【育みたい資質・能力】

見通しを持って観察・実験を行う力



【教材を選択】

既習や生活経験から発想した根拠のある予想を基に、実験対象を選択する



【育みたい資質・能力】

目的や場面、状況等に応じて情報や意見などを発信する力



【方法と学習形態を選択】

よりよい発表にするために、撮影した動画を自分で振り返ったり、友達やALTに見せてアードバイスをもらったりする

実践例⑤ 【美術】



【育みたい資質・能力】

美術や美術文化に対する見方・
考え方を深めたりすることがで
きる力



【学習形態を選択】

「実物大の作品」「過去の作品」
「年表」「高画質画像」から、ムンク
が作品に込めた思いを考える

発表内容

- 1 本校の現在地
- 2 1学期の取組
- 3 成果と課題
- 4 今後の取組

3 成果と課題



【成果】

- ① 「生徒が学び方を選択する」「生徒に委ねる」
ことを意識した授業が増えた
- ② 端末を使用するタイミングや活用について
生徒の主体的な判断を促す授業が増えた

【成果】

【教師アンケート】

- ① 子供が選択する場面のある授業づくりを
意識している 肯定的意見 80.0%
- ② ICTを効果的に活用した授業に努めている。
肯定的意見 90.0%

3 成果と課題



【課題】➡粘り強さに欠けている

【課題】

学習形態を選択する場面において、問題解決につながる選択になっていないときがある

友達に頼りがちで、問題解決に向け、自分で考えたり、調べたりしようとする粘り強さに欠ける

【生徒アンケート】

分からなかったことを、もう一度勉強しなおすことが好き(全年) 肯定的意見 59.9%

教科書に出ていないことや、もっと詳しいことを勉強することが好きだ(全年) 肯定的意見 52.3%

発表内容



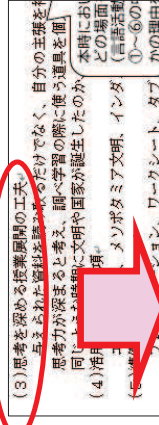
4 今後の取組

- 1 本校の現在地
- 2 1学期の取組、学校訪問
- 3 成果と課題
- 4 今後の取組

- (1)自らの学びを調整する力の更なる育成
- (2)ICT活用の目的の明確化
- (3)主体的な学びを引き出す単元構想
- (4)学びや変容に着目した評価の在り方

4 今後の取組

(1)自らの学びを調整する力の更なる育成



指導案に

「教科の見方・考え方を踏まえた選択の場面の工夫」を明記する

〔3〕教科の見方・考え方を踏まえた選択の場面の工夫
酸化銅を還元する物質の学習から炭素を含む有機物でも酸化銅を還元
有機物の中から選択し、本当に還元できたかを考察する。その場面で
力のあふ説明と力不足の「言葉がけ」ではなく結果の互恵や運動を撮影！

『「資質・能力の育成」のための
手段の一つ』としての選
択を意識した授業構想

4 今後の取組

(2)ICT活用の目的の明確化

△ 課題を自分ごととして捉えていないまま
ネット検索を使うと、目的を見失いがち



○ 授業のねらいを教師と子供で共有し、
子供が「ゴールを見通せる」ようにする

4 今後の取組

(3)主体的な学びを引き出す単元構想



4 今後の取組

(4)学びや変容に着目した評価の在り方

【2学期】

「指導案づくり(単元構想含む)」+「研究授業」
のセット訪問を5教科+技能教科の計6本実施

【3学期】

子供が自らの学びを調整しながら、主体的に学習
を進める力を育成するための「単元計画」づくり

「自ら選択した『学び方』はどうだったか」を
振り返る機会を設ける



自己の学びや変容を自覚化する場を設ける
ことで問題を解決するためにより良い学び
方を選択できる力を育成